

巻頭エッセイ 豊かな言葉とは何だろう？

世界への入り口 温又柔	2
生きながら生きる 小島なお	4
語彙の森を育てる教育 齋藤孝	6

国語
教室

October 2020
大修館書店 114

特集：語彙指導のこれから

『明鏡国語辞典』改訂に寄せて 北原保雄	10
---------------------	----

明鏡のあゆみ	16
--------	----

『明鏡国語辞典』で言葉の使い分け

コラムや「品格」欄で養う語彙力 永田里美	17
誤用情報と索引で養う語彙力 玉城久美子	20

国語便覧で語感を磨く

言葉の背景に目を向ける 奥村準子	23
表現力向上！身体で覚える語彙指導 安達和貴	26
【Twitter投稿企画】便覧、どう使っていますか？	28

大修館書店 学習辞典・国語便覧のご案内 …中面カラーページ

はじめよう！新課程への準備

今さら聞けない「現代の国語」「言語文化」ってどんな科目？ 山下直	36
寄稿 新刊に寄せて コロナ禍の大学入試——ヨーロッパと日本 伊藤実歩子	50
いま、漱石を読む(特別版) 教科書は時代を映す鏡 石原千秋	54

連載

〈新連載〉 詩の教室へようこそ①	「ほんとうのうた」の扉へ	和合亮一	40
〈新連載〉 ことばでつながる やまとうた①		ピーター・J・マクミラン、奥村準子	44
コトバのひきだし⑥	誰の肝煎りなのか、この話のキモだって？	関根健一	30
展望 これからの国語教育	参考文献を積極的に引用させる	佐渡島紗織	48
	——高大接続が求められる文章作成指導		
国語教師のための 古典文法指導講座⑥	「ナ特」で納得！——紫式部にファンレターを書こう③	大倉 浩	56
青山あり！中国祠堂紀行③	朱熹墓	平井 徹	58

コーナー

〈新コーナー〉 ICTあつと国語教育	コロナ禍におけるリアルとオンラインの学びの往来	江川順一	32
えつらん室	引き裂かれた世界の文学案内／日本語のイントネーション 「伝え方」のベストプラクティス／言語景観から学ぶ日本語		60
国語のNews & Topics			62

世界への入り口

昔々、私のランドセルがぴかぴかだった頃、学校の勉強の中ではサンスウやリカやシャカイよりもゴクゴがいちばん大好きなの、と言ったことがあった。そんな私にむかって父が、ゴクゴではなくコクゴだよ、と教えてくれた。コ、と、ゴ、の音のちがいを幼い私が聞き分けられるように父は、コ・ク・ゴ、と何度か繰り返した。

あの頃の父は、私よりも日本語がじょうずだった。私の父は台湾出身だ。母もそうである。父の仕事の都合で一家揃って日本に来ることがなかったら、七歳の私は台湾の小学校に進学したことだろう。けれども私は日本の学校に通う小学生として、コクゴ、と出会った。

コクゴの時間に、ア、イ、ウ、エ、オ、という音は、あ、い、う、え、お、という形で示せるのだと知った。あ（ア）からはじまり、ん（ン）で終わる五〇の文

台湾に帰ると、この子はまるで日本人みたいだね、と可笑しがられた。ふだん私のまわりで日本語以外の言葉話すのは父と母ぐらいなのに、台湾にいるとほとんどの人たちは日本語を話せない。たくさんいる伯父や叔母。それにいとこたちも皆、中国語を喋っていた。私も台湾ではカタコトの中国語を喋った。

あるとき、従姉が私の持ち歩いてたノートを見せてほしいと言った。従姉のことが好きだったから、私は喜んでノートを広げて見せた。わあ日本語だ、と感嘆した従姉はよっぽど興味深いのか、ノートに刻まれた私の筆跡にじっと目を凝らす。それから、学校、という部分を指さすと、xue xiào（シュエ・シャオ）、と言った。私は笑った。ちがうよ、これはガッコウと読むの。すると従姉は、あなたにとってはガッコウだけど私たちにはxué xiào（シュエ・シャオ）だもん、と言ったのだ。

日本語ならガッコウ。中国語だとxué xiào（シュエ・シャオ）。

その後、私は時々、考えるようになった。私も、「学校」をガッコウではなくxué xiào（シュエ・シャオ）

温又柔
おん ゆうじゅう
小説家。台北市生まれ。著書に、『台湾生まれ 日本語育ち』『真ん中の子どもたち』『空港時光』『国語』から旅立って』など。最新刊は『魯肉飯のさえずり』。

字を覚えると、私の世界は一気に広がった。本の中にも、言葉が溢れていると知ったのだ。「よかったね」「おいしい」「まって」……お気に入りの絵本を広げて、文字を一つずつ唱えると、それは皆、何かの言葉になる。本の中の言葉たちは、世界はとて広くて面白いのだと私に感じさせてくれる。それだけではない。私は自分でも文字を書くようになる。音でしかなかった自分の言葉が次々と文字になるのを楽しむ。

読むことと書くことをたくさん味わえるから、私はコクゴが好きだった。

両親は私がコクゴが好きであることを喜んだ。何しろ、コクゴができなければサンスウやリカやシャカイも、ちんぷんかんぷんだったはずだから。

コクゴは、すべての基本なのである。

それからものの数年もせずに、家族の中でいちばん日本語が得意なのは、父ではなく、私になった。

と読む私たちの一員だったのかもしれない。そう、日本ではなく台湾で育っていたのなら、きっと私も。学校の勉強ではゴクゴがいちばん好きなの、と言っていた自分の声がよみがえる。国語は正しくは、コクゴ、と読む。でも中国語だと、guó yǔ（グオ・ユー）になる。

コクゴ、と、guó yǔ（グオ・ユー）。

日本語と中国語がまざりあう世界で生きていた私は、ひらがなを覚えることで、本の中にも言葉が溢れているのだと知った。今もあの興奮を覚えていて。ちっぽけな自分の、狭い世界にいるのが息苦しくなったら、いつも本を開いた。本をめくれば、たくさん言葉たちが、私に読まれるのを待っている（と信じている）。本の中にはいつも、私がまだ知らない途方もなく豊かな、本の外の世界が広がっている。

guó yǔ（グオ・ユー）ではなく、コクゴの時間に文字の読み書きを習得した私の世界への入り口は、今も日本語だ。たぶん、今、これを読んでくれているあなたと同じように。

生きながら生きる

雨はふる、降りながら降る　生きながら生きる
るやりかたを教へてください　藪内亮輔

大学の講義で、高校の一日短歌授業で、最後に毎回「これまでに紹介した短歌の中でいちばん心に残ったものはどれでしたか」と質問します。すると、多くの学生がこの歌を挙げてくれます。

雨はふる、／降りながら降る／生きながら／生きるやりかたを／教へてください

わかりやすく読むために句と句の間に印を入れてみます。5・7・5・8・8と下句はやや字余りのリズムです。声の届かない誰かに訴えるような、モノローグとも取れるような文体。一行詩にも似たこの短歌には今、強い求心力があると実感します。

と思います。特にデジタルネイティブ世代は常に自分ひとりでは到底受け止めきれないほどの他者の情報に晒されている。「生きている」状態にありながら、自分一個の〈生〉についてどれほどの人が相対的でなく考えることができているのか。「生きるやりかたを教へてください」という普遍的な問いが、改めて今の学生の心と深く共鳴しているようです。

短歌に正解はありません。しかし優れた表現は、長い時間をかけて私たちのなかに沁み込んでくるものだと考えます。五年後、十年後、もっと先の未来に、新しく理解が深まったり、魅力が更新されてゆくものだと。瞬間的にぱっと多くの人の心を掴むフレーズも刺激的だけれど、言葉の底力をもっと説明のつかない謎に満ちたところに眠っているのではないか。情報のスピードが高速化している今だからこそ、長い時間をかけて言葉の謎、すなわち生きることの謎と向き合う面白さを学生には知ってほしいと思います。

うらうらに照れる春日にひばり上がり心悲し
もひとりし思へば　大伴家持

教科書で誰もが一度は目にしたことのある家持の最

こじま
小島 なお

歌人。コスモス短歌会所属。
二〇〇四年、高校在学中に
角川短歌賞受賞歌集に「乱
反射」「サリンジャーは死
んでしまった」「展開図」。

「雨はふる、」と言われたとき、私たちの多くは雨が降っている光景を漠然と思い浮かべるはずです。しかし「降りながら降る」と続くとき、視界は雨の風景から、雨粒の一つ一つへカメラのフォーカスを絞るように移行し、落下してはまた生まれる新しい一滴が見えてくる。「雨」という語には、雨粒すべてを総称した現象としての雨を指す場合と、一滴の雨を指す場合とがあることに気が付きます。一つとして同じものはない雨粒が無限に空に生まれ地面に消えてゆく。そのほんのひとときの滞空時間が一滴の「降りながら降る」命であるのです。

それでは「生きながら生きる」とは。当然この問いは私たちひとりひとりの問題であるでしょう。「生きている」ことと、「生きる」ことの間には微妙な隔たりがあるはずです。今は多くの人が心に傍からは見えないほどの小さい傷をたくさん抱えている時代と言え

高傑作とも評される一首。うらかな春の景色に同化できず、自分ひとりだけがそこに残されたような翳りが映し出されています。注目するのは「ひとりし思へば」という表現。万葉集の中にひとりであることを詠った作は他にもあるけれど、「ひとり思ふ」としたのは家持の発明なのです。「心悲しも」の内実は示されていない。ここにあるのはなにかの契機によって導き出されてきたものではなく、心の深部からおのずと滲んできた気分のみです。その捉えどころのない悲しみこそが、〈生〉に伴う根源的な存在の孤独だと考えています。

廃れる廃れると言われ続けながら、細く長く、千三百年生き残っているのが短歌という詩形です。なぜ私たちがこの詩を手放さないのか。歴史として残さなければ、というさまざまな人の使命感も往々にして作用しているとは思いますが……、それでもコミュニケーションの道具としてではない言葉の引力が、ひとりひとりの孤独と呼応するからではないでしょうか。孤独はマイナスの感情ではありません。自分がここに在る不可思議。自分と他者の交換不可能性。自分の孤独と時間をかけて対峙することこそが、豊かな言葉を生む原動力になると信じています。



特集 語彙指導のこれから

語彙力は、国語の力を支える基盤となるもの。ことばを豊かにし、適切に使いこなせるようになるために、どのような語彙指導が求められているのでしょうか。辞書や便覧を活用した、語彙力を高める方法を探ります。



子どもに限らず、社会全体の語彙力低下が指摘され続けています。背景には、読書離れやスマートフォンなどの普及など、さまざまな要因が絡んでいるのかもしれない。語彙力を高めるための大人向けの書籍もベストセラーになっています。高等学校の新しい学習指導要領でも「語感を磨き語彙を豊かにすること」が強調されています。これから語彙指導は、どうあるべきなのでしょう。

語彙指導の心強い味方といえば、辞書と便覧。大修館では、人気の『明鏡国語辞典』『ビジュアルカラー国語便覧』を改訂し、語彙力を高めるための工夫をさらに充実させました。本特集では、これら的大修館の新しい辞書と便覧を活用して、語彙をもっと豊かにするための新しい授業の形をご紹介します。

(編集部)

『明鏡国語辞典 第三版』の10大特色 次ページからの記事・中面広告で紹介！

- 1 二色刷！
探しやすく、読みやすい紙面デザイン 10 ページ
- 2 新語から学習に役立つ語まで
最新の言葉を約 3000 語増補 10 ページ
- 3 元祖・誤用までわかる国語辞典
言葉の正しい使い方を解説 10, 20 ページ
- 4 「恥ずかしくない大人の言葉遣い」をサポートする
「品格」欄 10, 17 ページ
- 5 漢字の使い分けがわかる
「書き分け」欄
- 6 読み間違いをしないための
「読み分け」欄
- 7 日本文化の言葉・文学によく出てくる言葉を解説するコラム
「ことば比べ」「ことば探究」 17 ページ
- 8 話すときにも書くときにも使える
巻末付録「伝えるためのことば」
- 9 意味から使い方まで
新語・新用法がわかる 10, 30 ページ
- 10 知りたい情報にたどり着ける
便利な索引 10, 20 ページ

『ビジュアルカラー国語便覧 改訂版』3つのポイント をご紹介！

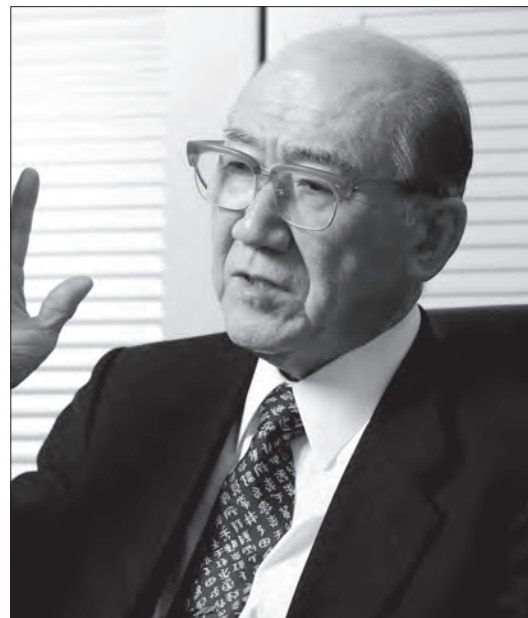
- 1 実生活で役立つ国語の力を身につけるための工夫が満載
新しい時代に求められる国語力を強化 23, 26 ページ
- 2 写真資料 1500 点以上、資料 600 点以上を収録
見やすく、わかりやすい資料が満載 23 ページ
- 3 好評の動画リンク集「まなび動画 Navi」がパワーアップ
いつでも、どこでも、まなびにアクセス！

◆寄稿

『明鏡国語辞典』 改訂に寄せて

きたはら やす お
編者 北原 保雄

1936年生。筑波大学名誉教授(元筑波大学長)。新潟産業大学名誉学長。主な著書『問題な日本語』『日本語の助動詞』『日本語の形容詞』(以上、大修館書店)『続 岐点の軌跡』(勉誠出版)など。主な辞典『明鏡ことわざ成句使い方辞典』(大修館書店)、『全訳古語例解辞典』『日本国語大辞典 第二版』全13巻(共編、以上、小学館)など。大修館書店国語教科書監修。



■明鏡のコンセプト
『明鏡国語辞典』の第三版がいよいよ刊行されます。まずは『明鏡』が初版から貫いてきたコンセプトを教えてくださいませんか？

初版から一貫して変わらないコンセプトは、これまでにない「最良」「最高」の辞書を創るということです。これは私の辞書創りの信念でもあります。言葉は、その意味も使われ方も時代とともに変わります。新しい言葉が生まれ、また、使われなくなる言葉が出てきます。ですから、「最新」というコンセプトも大切です。

「明鏡」は、曇りのない、澄み切った鏡のことですが、その鏡に日本語の現在を鮮明に正しく映していきたいと思っています。

■改訂のポイント

第三版では、読者や学校現場の声を積極的に取り入れた改訂をされたそうですね。第三版の改訂のポイントをお聞かせください。

高校生の皆さんや先生など学校の現場からはもちろん、一般の方々からも、いろいろのお声をいただいていた

ます。そういうご意見、ご感想だけでなく、私どもでもいろいろ考えて少しでも良い辞書にしようと努力しました。特に、高校生や中学生の皆さんに役立ち、歓迎していただけるように改訂しました。

改訂のポイントということですが、改訂というよりも、新しい辞書を作成するような気持ちで編集しました。ポイントではなくさんありますが、第一に、二色刷りにしたことです。紙面が立体化して格段に読みやすくなったと思います。単に二色にただでなく、レイアウトを一新して利用しやすくなりました。

意味分類の多い重要項目は意味を大きく分けて仕切りを入れ、調べたい意味にたどりつきやすいようにしました。これは、画期的な試みだと思っています。

また、解説や用例の書体を変えて間に赤い二重線を入れ、見分けやすくなりました。用例をたくさん示す『明鏡』ならではの工夫です。

第二版までの「表記」「語法」「表現」などの硬い欄名を改めて、「書き方」「使い方」などの軟らかい欄名に言い換え、また、「書き分け」「読み分け」「品格」などの欄を新設して、それらのマークを赤色で目立つようにしました。

「品格」の欄を新設したことや索引を充実させたこと

るようにする。「道を」「会議室を」けておく「午後

「狼煙」の「風大会旗」を揚

は時間を「けておく」

「建て」を「」に「」

5「空」その地位に誰も就いていない状態にする。「部

6「上」垂れた髪を上の方

6「開」(入り口の戸を開けて始めることから)商店など

7「上」飲み食いしたものを

7「開・空明」空間的・時間的な間隔を生じさせる。「

8「上」演じるために周囲を

「壁と本棚との間をわずかに開ける」「登板の間隔を空け

9「上」構造物で、下に位置

「行間を開ける」「水をあける」「先行・後行者間には

10「上」建造物の上方に位

つきりと差をつける」

11「上」揚「水上」水中から

8「明・開」衣服の部分を広くひらいたり、たき目をなく

12「上」室内に入れる。「客

したりして、開放された状態にする。「胸元をたっぷり

13「上」段階や等級には

「けたドレス」

14「上」今までのより物事の

①⑥★閉める・閉じる ④⑤★ふさぐ

15「上」上達する。★下げる

②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕

16「上」値段や給料を高く

①「瓶を空にする意」③となる。又、あく

17「上」物に大きな音を

あ・ける「上げる」挙げる・揚げる(一騰げる)「

18「上」物に大きな音を

「動下」「他」①「上」ある物を低い所から高い所

19「上」物に大きな音を

に移す。「本を棚の上に」「高々とパベルを」「シャ

20「上」物に大きな音を

ツターを」「祝杯を」「下ろす・下げる」「便の方」「外

21「上」物に大きな音を

野に」「下ろす」などは、く「結果」とも言い方。上

22「上」物に大きな音を

ける「上」上下に敷かれた板・床などを取り外したり片づけ

23「上」物に大きな音を

たりする。「畳を」「上げて大掃除をする」「布団を」「

24「上」物に大きな音を

両手を」「賛成の方は手を挙げて下さい」「上体・顔を

25「上」物に大きな音を

「★下げる・下ろす」

26「上」物に大きな音を

4「上」人・動物が低い所から高い所に移動すること。上

27「上」物に大きな音を

上がる。三子供を「階に」「下ろす・下ろす」

28「上」物に大きな音を

5「上」揚「旗・風・煙・火」などを空中高く上げる

29「上」物に大きな音を

ようにする。(意図的な行為にもあてないものにもあて

30「上」物に大きな音を



も大きな改訂です。

また、誤用の解説は、初版以来の『明鏡』の特長ですが、「注意」欄などで扱う誤用の解説も大幅に増補し、充実させました。

その他いろいろありますが、単なる改訂にとどまることなく、すべてを一新して、生まれ変わりました。是非手に取ってご覧いただきたいと思います。そして使いこなしてみてください。使いこなしてみなければ、辞書のよさはわかりません。

■項目の増補

――項目の増補についておうかがいたします。第三版では、どのくらいの数の語を増補したのですか？

第三版では約三〇〇項目を増補しました。約一〇年に一回の改訂ですから、新しい言葉（項目）がたくさん出てきます。その中から選ぶのは苦労しました。紙幅に制限がありますし、多ければ多いほどよいというものもありません。取捨選択が大切です。

――新たに収録された項目の例を教えてください。

第二版では、新語（若者言葉）が急増して、それに対

たとえば、「どや顔」という言葉が新しい言葉として流行っていて、第三版には採録しましたが、あまり品のよい言葉ではありません。「したり顔」「時を得顔」と言い換えれば、多少、改まった場面でも使うことができます。ということで、「品格語」として挙げました。

「頑張る」に対しては、「勤しむ」「研鑽に励む」「刻苦」「精進」「精励」「精を出す」「努める」「奮励」「骨を折る」などを挙げました。そして、一つ一つに用例も添え、言葉によっては、説明も加えました。

がんばる「頑張る」（目五）①自分の考えや意志を押し通そうとする。我を通す。「一歩も譲らないと――」（二）（困難や障害に）まけないで「精一杯努める」。「会社再建に一生懸命」。「声援で」フレ、「一れ！」。「――って練習したか」が優勢で「最後の一週間を精一杯――」（一）「使いたく（他動詞）として使う」。「英語の勉強を――」（二）「一番になったこともある」（二）「プラスに評価して」（三）「警備を固めて」（四）「動かさず」（五）「警官隊が先で――」（六）「吾輩が台所の真中に――」（七）「と（鼠方）三方面共少々ずつ騒ぎ立てる（漱石）」（八）「我がに張る」の意からという。**可能頑張る**「**名**頑張り」

品格「**名**格」（一）「研鑽に励む」「日夜」（二）「刻苦」（三）「精励」（四）「精を出す」「精を出す」「練習に」（五）「努める」（六）「希望に添うように努めます」（七）「奮励」（八）「努力」（九）「骨を折る」（十）「他人のために――」

品格欄

応するのが大変でしたが、今回の改訂でも、新語はもちろん新たに採録しました。具体的には、「エモい」「ほぼほぼ」「義実家」「マウンストを取る」などです。「SDGs」「ダイバーシティ」「サブスク」「長傘」（なががさ）「キャッシュレス」「SMS」など、もっと広い一般の分野からの新しい言葉も多く収録しました。

また、高校教育の現場のことを考えて、高校の国語教科書に載っている近代文学作品などの言葉も追加しました。第二版で、「羅生門」「山月記」「こころ」「舞姫」に出てくる語を増補したところ好評でしたので、第三版では、「檸檬」「富嶽百景」「夢十夜」「山椒魚」などからも、難解な言葉を収録しました。たとえば、「詩美（檸檬）」「頂角（富嶽百景）」「妙境（夢十夜）」「心をかきむしられる（山椒魚）」などです。

■「品格」欄

――第三版では新たに「品格」欄が設けられました。この「品格」欄について教えてください。

「品格」欄の新設は第三版の一つの目玉です。ある言葉には、同じ意味でも他の言い方があります。類義語ですね。その中でも、品格のある語とない語があります。

この欄は、語彙学習に役立つと思います。ある語の品格欄から、他の語についても広げて、学習を発展させていただけたら、語彙力が身につくのではないかと思います。

■言葉の解説

――『明鏡』の初版からの大きな特色として、言葉の使い方や誤用についての解説が詳しいということがあると思います。今回は、どのような解説が増補されましたか？

収録した言葉についての解説は、辞書で最も大切なことです。その言葉の意味、使い方や、誤用などについての解説がとても詳しいというのが『明鏡』初版以来の大きな特色でしたが、今回の改訂でも、それをさらに充実させ洗練させました。

たとえば、誤用については、「×優勝する何て思わなかった」「×応募を受け付ける」「×苦虫を噛んだよう」など、つい使ってしまうようなものを取り上げて解説しました。

また、言葉自体は以前からあったけれども、新しく使われるようになった意味というものもあります。たとえば、「推す」は、最近、気に入った人や物をファンとし

て応援するというような意味で使われますね。このような新しい意味も第三版で積極的に解説し、新しい意味であるということがすぐにわかるように、〔新〕のマークを付けました。

■索引

——第二版には別冊付録として「明鏡 問題なことは索引」が付いており、誤用などから辞書が引けるのが画期的でした。第三版でも同じような索引が付くのでしょうか？

「明鏡 問題なことは索引」はとても好評でしたね。辞書は、国語辞典なら五十音順と決まっていますから、索引は不要のように思われますが、「誤用索引」「敬語索引」「気になることは索引」はいずれも有用で、とても喜ばれました。「明鏡」の特長は、誤用や気になる言葉（問題な言葉）についての解説であり、それを索引で引けるようにしたのです。

別冊にした方が使いやすいと思って別冊にしたのですが、本体と別々だと紛失しやすいというご意見もありましたので、今回の改訂では、本体と一緒にしてみました。第三版では、内容も一新しパワーアップしました。第二版の内容はひとまとめにして「明鏡 利活用索引」とし、

アルファベット略語をABC順に引ける「アルファベット索引」、難読語を画数から引ける「難読語索引」を追加しました。

索引の充実、辞書をより効果的に利用するために役立ちますが、それだけでなく、利用者の語彙力増強のためにもとても役に立つと思います。

高校生の皆さんに、『明鏡』の索引を大いに活用して語彙力を一段と伸ばしていただけたら嬉しいですね。

■語彙指導での『明鏡』の活用

——新指導要領でも「語彙の充実」が謳われていますが、ここまでうかがってきて、『明鏡第三版』には、「品格」欄や言葉の解説など語彙力の向上に役立つ特色がたくさんあると感じます。語彙力の向上のために、高校生にはどのようなことを意識して『明鏡』を使ってもらいたいですか？

語彙力の向上、語彙学習の重要性については、繰り返し述べてきましたが、どれだけ多くの言葉を知っているかで頭の良さが判断されることもあります。ですから、語彙が豊富でその使い方をしっかりと理解していることは、とても大切なことです。

言葉は、一語一語が単独で存在するものではありません

あやか・る「マ肖る」〔目五〕幸せな人の影響を受けて同じように幸せになる。また、幸せを急いで幸せな人と同じことをする。〔彼の幸運「長生きの祖父」に「りたい」〕
〔注〕「人類は科学の恩恵にあやかってきた」など、受ける・かかわる意の「あずかる（与る）」と混同するのは誤り。
可能 あやか・れる 〔名〕あやかり

→宛て◆書き方……………38	×油を注ぐ……………45
①後	△アボカド……………47
×私の後に犬がいる	○アボカド……………47
→後①使い方……………39	①天翔ける……………47
①あと(後/跡)を継ぐ……………39	△天翔けて……………47
→後②書き分け……………39	→天翔ける注意……………47
①あと(後/跡)を追う……………40	→数多……………113
→後②書き分け……………40	→いっぱい品格……………205
①あと(跡/痕/址)……………40	→多い品格……………1030
→後②書き分け……………40	→たくさん品格……………1030
①あと(跡/痕/址)……………40	△あまっさえ……………48
→跡②書き分け……………40	○あまつさえ(刺え)……………48
①あとう(能う)……………31	①余り……………49
→あとう(能う)書き方……………31	…なあまり/…のあまり……………49
①後追いついしんじゅう〔許容〕……………40	→余り③使い方……………49
○後追いついしんじゅう(心中)……………40	①余り/あまり……………49
〔本則〕……………40	→余り書き方……………49
①後押し……………40	①あやか・る……………52
×不安を後押しする……………40	×人類は科学の恩恵にあやかってきた……………52
→後押し注意……………40	→あやか・る注意……………52
①後片付け/跡片付け……………40	
→後片付け書き方……………40	
①あとじさり/あとずさり/あと……………40	

明鏡 利活用索引

ん。関連する語との類義、微妙な相違などがあり、まとまりをもって存在しているものです。

『明鏡第三版』では、特に品格のある言葉に注目して、同じ意味を表す言葉にもいろいろあることを丁寧に説明するように心がけました。また、索引を根本的に充実させて、言葉と言葉を関連させて学習することに役立つようにもしました。

文章の理解と表現だけでなく、話し、聞く、読み、書く、のすべてにおいて、語彙の力は大切です。高校生の皆さんには、ぜひ語彙力をつけていただきたい、そういう思いで第三版は改訂しました。

コロナ禍で大変な時期でしたが、ほぼ望み通りの改訂ができました。あとは、『明鏡』の特長を活かして利活用していただければです。

——ありがとうございます。

※この記事は、編集部が用意した質問に対し、文章で回答いただき、作成しました。

大修館書店 学習辞典・国語便覧のご案内

10年ぶりの大改訂！



明鏡国語辞典 第三版

北原保雄〔編〕
B6判・1922ページ・二色刷
定価＝本体 3,000円＋税

大充実の改訂！



ビジュアルカラー 国語便覧 改訂版

大修館書店編集部〔編〕
B5判・544ページ・オールカラー
定価＝本体 900円＋税



もっと知りたい！を支える

トータルサポート 新国語便覧

大修館書店編集部〔編〕
A5判・608ページ・オールカラー
定価＝本体 880円＋税

2002



明鏡国語辞典 第二版

初版で好評だった言葉の使い方の解説をより充実させ、「喝を入れる」などの誤用も多数取り上げました。
また、それらの解説にスムーズにたどりつけるよう、国語辞典として初めての「問題なことが索引」を別冊付録としました。
新項目も約四〇〇〇語を増補。「みんなで作ろう国語辞典！」の企画に寄せられた項目の中から「いらつと」「空気を読む」「がち」など、「ふだんづかい」の新語を積極的に収録しました。

明鏡国語辞典

二一世紀の日本語を映す、新たな国語辞典として登場。
「夜が明ける／朝が明ける」の違いや、「役不足ですが頑張ります」といった誤用など、言葉の使い方がわかる解説は、それまでにない画期的な特色でした。
刊行を機に、国語の先生方にご協力いただいたアンケートからベストセラー「問題な日本語」も誕生！

明鏡のあゆみ

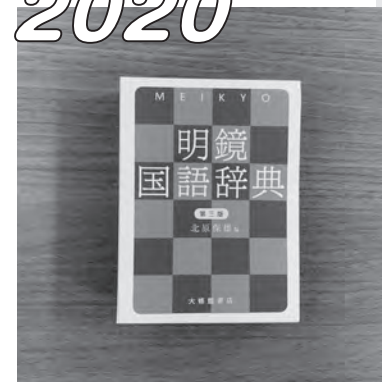
2010



明鏡国語辞典 第三版

『明鏡』を、愛用くださっている先生方のご要望を受け、より使いやすい国語辞典を目指しました。
たとえば、二色刷の紙面、評論文キーワードや教科書に出てくる語の増補、語彙力を高めるための「品格」欄やコラムなどは、高校の国語の先生方のお声により実現した特色です。
初版からの『明鏡』らしさはそのままに、新しい工夫も盛り込み、「読む」「書く」「話す」など、さまざまな場面で役立つ第三版となりました。

2020



特色2 新語から学習に役立つ語まで 最新の言葉を約 3000 語増補

- 時代を反映する語…SDGs／ワークライフバランス／食品ロス／サブスク／キャッシュレス
- 新語…エモい／イケボ／バズる／ほぼほぼ
- 評論文キーワード…心身二元論／サステナビリティ／生物多様性／ソーシャルメディア
- 教科書の定番教材の語…詩美（檸檬）／頂角（富嶽百景）／妙境（夢十夜）

あやかる「マ肖る」「目五」幸せな人の影響を受けて同じように幸せになる。また、幸せを念じて幸せな人と同じことをする。「彼の幸運」「長生きの相父に「りたい」

【注意】「人類は科学の恩恵にあやかってきた」など、受ける・かかわる意の「あずかる（与る）」と混同するのは誤り。可能あやかれる【あやか】

すんし「寸志」「名」①わずかな志。少しの気持ち。②多く自分の気持ちをいう丁寧語として使う。③心ばかりの贈り物。ささやかな謝礼。④自分の贈り物をいう丁寧語。多く謝礼や贈り物のし紙の上に書く。【注意】もらう側がいうのは不適切。②「歓迎会の幹事が部長から×寸志」○お心遣い「御厚志」を賜りました」

特色3 元祖 誤用までわかる国語辞典 言葉の正しい使い方を解説

- 「アニメ好きの血がうずく」「今回だけは多めに見よう」「恩恵にあやかろ」「部長から寸志を賜る」「有利に立つ」などつい使ってしまうがちな誤用や、「捜査が佳境を迎えている」「爪痕を残せるよう頑張りたい」など気になる表現をさらに増補して解説。
- 正しい言い方・使い方もわかる。

特色4 「恥ずかしくない大人の言葉遣い」 をサポートする 「品格」欄

- ふだんづかいの言葉から、改まった場面でも使える言葉を調べられる「品格」欄を新設。
- 品格語は用例とともに示し、どんな文脈で使える言葉なのかがわかる。

すこし「少し」副 数量が少ないさま。また、程度がわずかであるさま。ちよつと。「酒を「飲む」「頭が「痛い」「もう「の辛抱だ」「彼は「前に帰った」「「「些」もと。少々使い方

【品格】「幾分」兄の方が身長が高い「些」か「一本不安」一「の望み」「一「の涙」「一「の悔いもない」希少「一価値」「極小」「一「庫」「心持ち」「一早く「出た」「一「段が「高い」「寸量」「一も「変わらない」「若干「値もない」「露」「一「疑わぬ」「微塵」「一も「感じさせない」「や「一異なる考え」「わすか」「一に成長している」「一「一「不安や寂しさに」「一「一は希望や望みなど前向きなものに使う。

明鏡国語辞典 第三版

北原保雄「編」

B6判・1922ページ・二色刷
本体 3,000円＋税



特色1 二色刷！探しやすく読みやすい紙面



- 項目が探しやすいのはもちろん、**注意** **使い方** **書き方**など解説のマークがつけやすく、知りたい情報にすぐにたどり着ける。
- 解説の長い重要語は意味の近いグループごとに分けて「仕切り」を入れ、調べたい意味がどこに書かれているか探しやすい。
- 解説と用例で書体を変え、読みやすさを追求。



特色5

漢字の 使い分けがわかる 「書き分け」欄

つく・る「作る・造る」「他五」①「作」造る。創原料・材料・素材などに手を加えたり部品を組み立てたりしてあるまじつたものを新たに生み出す。「作」食事曲を作る「米が酒を造る」「船市子倉を造る」「創」を使う場合もある。「書き分け」便の方注文生産の場合は、作製する注文主が主語に「立」が多。「市が公会堂を立」②「作」組織・制度・仕組みなどを新しく生み出す。「国会社システム法律を立」

「相手に貸しを」一般には借りよりたない」

「造る」造る。①「作」造る。創原料・材料・素材などに手を加えたり部品を組み立てたりしてあるまじつたものを新たに生み出す。「作」食事曲を作る「米が酒を造る」「船市子倉を造る」「創」を使う場合もある。「書き分け」便の方注文生産の場合は、作製する注文主が主語に「立」が多。「市が公会堂を立」②「作」組織・制度・仕組みなどを新しく生み出す。「国会社システム法律を立」

- どのような意味の時にどの漢字を使うのか、同音異義の漢字を解説した「書き分け」欄。
- 『「異字同訓」の漢字の使い分け例』（平成26年文化審議会報告）に準拠。

特色6

読み間違いを しないための 「読み分け」欄

おも「主重」「形動」主要なさま。中心である。「今月の「な行事」」当地の「な産物」」「おもな（まれに）文語形「おもな」とおもとの形で使われる。おもなを連体同として扱ったものもある。主「読み分け」主に（対象は小学生）「主だった人々」は「おも」と読む。主として（参加者は小学生）「主が主となる学生が主となって立てた企画」は「おも」と読む。

- 同じ漢字で意味が似ている語の読み分けを示す「読み分け」欄。

特色7

日本文化の言葉・文学によく出てくる言葉を解説するコラム 「ことば比べ」「ことば探究」

「ことば比べ」「ことば探究」の使い方

「ことば比べ」は「釜」と「竈」の「釜」と「竈」の「釜」を比較して解説する「ことば比べ」。

「ことば探究」は「釜」と「竈」の「釜」と「竈」の「釜」を比較して解説する「ことば探究」。

「釜」は飯を炊くのに使う器具（お釜）。

「竈」は陶磁器・ガラス・炭などを作ったり、ヒザなどを焼いたりするために、素材を中に入れて熱するところ。

「竈」は調理器具を上にかけて素材を熱するところ。

「ことば比べ」「ことば探究」の使い方

「ことば比べ」は「釜」と「竈」の「釜」と「竈」の「釜」を比較して解説する「ことば比べ」。

「ことば探究」は「釜」と「竈」の「釜」と「竈」の「釜」を比較して解説する「ことば探究」。

- コラムを約60本増補。
- 「蕨（いらか）」と「屋根」「火鉢」と「いろり」。「釜（かま）」と「竈（かま）」と「竈（かまど）」など、日本文化に関わる言葉を比較して解説する「ことば比べ」。
- 「いぶかる」「すこぶる」「刹那」「ねざらう」「ゆえ」など、文学作品によく出てくる言葉の使い方を解説する「ことば探究」。

特色8

話すときにも 書くときにも使える 巻末付録 「伝えるためのことば」

- 敬語
- 接続詞
- 手紙の書き方
- 挨拶のことば
- 季節のことば

など

特色9

意味から 使い方まで 新語・新用法 がわかる

- 「エモい」「推し」などの新語や、「ゲームに課金する」「話のキモ」など、近年新しく使われるようになった意味には〔新〕のマークを表示。

今号 P.30「コトバのひきだし」でも取り上げています！

特色10 知りたい情報にたどり着ける 便利な索引



- 第二版で好評をいただいた別冊索引を、第三版では本体に組み込んでパワーアップ。
- 索引は「明鏡 利活用索引」「アルファベット索引」「難読語索引」の3種類。「明鏡 利活用索引」では、誤用、気になる言葉の使い方、「品格語」、どこを引いたらいいかわからない語が引ける。

累計 50 万部超！最強の便覧、ついに改訂

特色

2

見やすく、わかりやすい資料が満載！

写真資料 1500 点以上、資料 600 点以上を収録した、
ビジュアルでわかりやすい国語資料集。

巻末付録「社会を知るためのテーマとキーワード」

社会を知るためのテーマとキーワード

環境

年々、深刻化する地球温暖化問題。「かけがえのない地球」を美しい状態で
次世代に引き継ぐために、私たちに何ができるのか。考えてみよう。

① 地球温暖化

地球温暖化の問題点

① 温室効果ガスが増加し、気温が上昇する。
② 気候変動により、減少した生物が絶滅し、生態系が崩壊する。
③ サハラなど乾燥した地域で発生する砂嵐が増える。
④ 内陸部では乾燥化が進み、農産物や牧草の生産量が減少する。
⑤ 海面上昇により、低地や島嶼国が水没する。
⑥ 海洋温暖化により、海洋生物の生態系が崩壊する。
⑦ 気候変動により、自然災害の頻度が増える。

地球温暖化のしくみ

5 大テーマ

「環境」「社会」
「情報・メディア」
「国際」「生命・科学」
の論点を視覚的に解説
します。

デジタル資料
参照項目には
マーク付

音声

動画

資料

② 生物多様性

地球上の生物は約 30 億年の歴史の中
で多岐にわたって進化し、今ではその種類は
300 万の種と推定されている。生き物のた
くさんの豊かな多様性のおかげで、我々
の生活は支えられている。生き物のた
くさんの多様性を保ち、その多様性を
維持することは、我々の生活にとって
不可欠である。

生物多様性が脅かされる原因
① 気候変動による影響
② 森林破壊による影響
③ 農薬の使用による影響
④ 外来種による影響
⑤ 汚染による影響
⑥ 過剰な採掘による影響
⑦ 過剰な漁獲による影響
⑧ 過剰な採集による影響
⑨ 過剰な採掘による影響
⑩ 過剰な採集による影響

③ 持続可能な社会

持続可能な社会とは

持続可能な社会とは

アクセス！
夏目漱石

特色

3

いつでも、どこでも、まなびにアクセス！

好評の動画リンク集「まなび動画 Navi」がパワーアップ。
オリジナルコンテンツを含む、新感覚の国語資料をそろえました。

New!

●「学習者用 大修館デジタル国語便覧」を同時発行！
ビジュアルカラー＆トータルサポート どちらも使えます。

ビジュアルカラー

国語便覧 改訂版

大修館書店編集部 [編]
B5 判・544 ページ・オールカラー
本体 900 円＋税

新課程対応！

●表紙イラスト・田中寛崇

特色

1

新しい時代に求められる国語力を強化！

実生活で役立つ国語の力を身につけるために、
さまざまな工夫を盛り込みました。

巻頭特集「未来とつながる国語の力」

思い切り楽しみながら
想像する力・発信する力・共感する力をはぐくむ
教室が動き出す活動をご提案します。



高校生に身近な事例をもとに、
「話す・聞く」「書く」「読む」
のポイントを丁寧に解説します。

オンラインによる授業や
グループワークのマネーなど、
新しいリテラシーもご紹介。



New!

■はじめに

教室で生徒に辞書をひかせるのは、どのような時でしょうか。それはたとえば教科書の作品を読むなかで難解語句の意味を調べさせたり、作文を書くなかで漢字の表記を調べさせたりというように、当該語句の意味や表記を確かめる時が多いのではないのでしょうか。

しかし、それだけでは多くの生徒が辞書をひいたきりで終わってしまいそうです。語彙力とは、ことばのネットワークであると考えます。このネットワークを培うのに役立つのが『明鏡国語辞典 第三版』（以下、『明鏡』）のコラムや「品格」欄です。ここでは、生徒が使いやすい語句や教科書の教材のなかで出会う語句をきっかけとした『明鏡』の活用方法をご紹介します。

★「品格」①作文におけるペアワーク

「あと、私が気になったのは……」のような口語は、生徒の作文でしばしば気になるところです。しかし、教師が一方的に朱を入れるだけでは、生徒の語彙は主体的に広がっていきません。

口語をあらためるにあたってはペアワークがお勧めです。『明鏡』をひき、「品格」欄から文意にふさわしい語句を生徒同士で考えさせると、楽しみながら語彙を学ぶことができます。

更に「共通の問題点を探るべきだ。」意見の違いも確認すべきだ」その上「彼は優しい。」頭もいい「それから「コーヒー」をください。」「ケーキもください」それに「駅に近い。」「近くに公園もある。」後「ためらった」返事をした」後「うかがいます」また「少子化が進んでいる。」「高齢化も問題になっている」

あと【後】の「品格」

「明鏡国語辞典」で言葉の使い分け

コラムや「品格」欄で養う語彙力

ながたさとみ 永田里美

明鏡国語辞典 第三版 編集・執筆協力者

「もっと知りたい！」を支える新しい時代の国語百科

新国語便覧

大修館書店編集部 [編]
A5判・608ページ・オールカラー
本体 880円＋税

言語文化・探究学習

古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化。

書く力・語彙力

「書く力」と語彙力を養う「言葉の知識編」「表現編」が充実。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、レポート・小論文を書くためのページが充実。

便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート

準拠問題集 新傾向問題付き

B5判・64ページ 生徒用

『トータルサポート新国語便覧』と合わせて使える問題集。解答付き。

まなび動画 Navi 生徒用

スマホ・タブレットなどで視聴できる関連動画や音声を紹介。

準拠 CD-ROM 指導用

授業で活用できるデータを満載！

●まなび動画活用ワークシート ほか

New!

●「学習者用 大修館デジタル国語便覧」を同時発行！
ビジュアルカラー＆トータルサポートどちらも使えます。



「コラム」①文学の情景を味わう

夕闇は次第に空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葺の先に、重たく薄暗い雲を支えている。(芥川龍之介『羅生門』)

ここは「重たく薄暗い雲」が下人の心理を象徴している大切な箇所です。この雲を支えるのが葺ですが、教科書脚注などの「かわらぶきの屋根」ではニュアンスがなかなか伝わりません。『明鏡』のコラム「ことば比べ」を調べさせると、「葺」が羅生門の権勢や景観美を表していることがわかります。もしここが「葺」ではなく「屋根」であつたらどのような印象になるか、考えさせるのもよいでしょう。

「ことば比べ」「葺」と「屋根」

▼「屋根」が家の部分名称に過ぎないのに対して、「葺」は屋根を表すとともに「葺を争う」、「葺が獲みえる」のように、家そのものを象徴する。

▼葺の波「葺の海」などは、瓦屋根の波打つ様子が景観の美しさにとえられ。

「コラム」②類語との比較

そうして、その死骸は皆、それが、かつて、生きていた人間だという事実さえ疑われるほど、土をこねて造った人形のように、口を開いたり手を伸ばしたりして、ごろごろ床の上にくらがっていた。(芥川龍之介『羅生門』)

人間が土人形になる時間の経過を「かつて」が表しています。「かつて」はあらたまった語句として現在も使用されますが、「以前」とはどのように異なるのでしょうか。『明鏡』のコラム「ことば探究」では「以前」と比較しながら「かつて」の適切な使用方を学ばせることができます。

「ことば探究」「かつて」の使い方

▼「以前」等と比べ、近い過去は表しにくい。

「Xかつてもらった書類が見つからない」

▼「かつて」②の場合、「かつて」だけで使うほか、「いまだかつて」という形で使うことも多い。

「いまだかつてない大きなチャンス」

「コラム」③適切な使い方を押さえる

隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性狷介、自ら恃むところすこぶる厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。(中島敦『山月記』)

『山月記』の冒頭は格調が高く、暗唱させる機会も多いことと思います。しかし生徒のなかには覚えた語句を背伸びして使ってみようとするものの、「すこぶる少ない」のように誤用がみられることもあります。『明鏡』のコラム「ことば探究」を活用して、正しく使えるように指導したいものです。

「ことば探究」「すこぶる」の使い方

▼「量的に少ない」この程度を表す場合には使えない。

「△登場人物がすこぶる少ない」「△このチームは士気がすこぶる低い」

▼自分の感情・感覚・態度にも使うことがない。

「△すこぶるうれしい」「△すこぶる感謝しています」

▼「すこぶる詳しい」のように形容詞を修飾できるが、その形容詞がさらに動詞に続いた「すこぶる詳しく書き込む」などは使えない。

「品格」②語彙を広げる

しかし、文名は容易に揚がらず、生活は日を追うて苦しくなる。李徴はようやく焦躁にかられてきた。このころからその容貌も峭刻となり、肉落ち骨秀で、眼光のみにたずらに炯々として、かつて進士に登第したころの豊頬の美少年の面影は、どこに求めようもない。(中島敦『山月記』)

ここに挙がっている「容貌」、「面影」はいずれも「顔」に関する語です。では、「顔」には他にどのような格式高い言い方があるのでしょうか。『明鏡』の「品格」欄が参考になります。授業では難解語句を調べただけではなく、日常的に使用される語句との関連付けを行うことで、新たな語句の定着を図ることができます。

このように、授業におけることばのネットワークづくりには『明鏡』のコラムや「品格」欄は強力なサポーターとなってくれるはずです。

品格 面影 少女の「が残る」面影。し「が父に似ている」面立ち。端整な「面」。し「を上げる」顔面。「蒼白」形相。「憤怒の」相好。「を崩す」相貌。「青ざめた」表情。「が豊か」面目。「をこぶす」容色。「美しい」容貌。「が優れる」容色。「美しい顔」容貌は体まで含む場合もある。

かお【顔】の「品格」

たまきくみこ
玉城久美子

お茶の水女子大学附属
高等学校教諭



はじめに

そこで、『明鏡国語辞典 第三版』の誤用情報や索引を使った語彙指導の活動を提案する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなどにより、主体的・対話的で深い学びにつながるような活動を考えてみよう。辞書というツールを用いて、クラスメイトとともに問題作りや間違ひ探しに取り組みながら、語句の意味や使い方に對する認識を深め、語感を磨き、語彙の質と量を両面から充実させる活動を目指したい。

あ

■愛想が／ある／愛想がいい
一愛嬌／優しい(方)……………3

■愛嬌が／愛想を振りまく
一愛嬌／優しい(方)(2)……………3

■愛さない／愛しない
一愛するの(意)方……………4

◎あいさち
□あいづち(根拠)……………5

■愛想も／もくそも根つき果てる
◎愛想も／もくそも尽き果てる……………5

因あいたいく(許す)
□あいたいく(相対ずく)
(奉迎)……………5

■聞かした口が塞がらない
×ホームランの健児に聞いた
口うさがらない
一開いた口が塞がらない(注意)……………17

半生情状
一残念気持……………696

◎かゝいの手を打つ
◎かゝいの手を入れる……………6

◎相見互い
□相身互い……………7

■会へる
～と会う／～に会う
一會う(意)方……………7

■会う(会)／逢／通／遇／逢(面)
二会う(方)……………7

■赤らめる
◎泣いて赤らめた目
一赤くなる(注)……………13

◎あがる／あげる
一上(が)る／こじ(取)り方……………14

一上る／上(り)たい(方)……………1344

◎あがる(上)／舉／擧／騰
一上(が)る直置(方)……………14

◎明れるみ出す
○明るみに入る
◎明るみになる
○明るみ出る……………14

■踏んき足りない／踏んき足らない
一踏んき足りない……………15

一踏んき
△口を踏*
一聞く／聞(き)……………16

◎あく／悪(き)／邪
一聞く(通)／受(け)……………16

◎思が強い
◎あくが強い／坂才が強い
一坂才(通)方……………16

◎思いつく
◎あくどい……………18

■悪意(あくよりふ／やくれい)
一あくより／思ひ分別……………19

■事掛け
×空気を掛け句、免れた
一撃げ句(注)……………20

▲『明鏡国語辞典 第三版』索引(見本)

フリップを使ったプレゼンテーション

街中やテレビ、インターネット等の表現・表記から誤用例を探し、どのように用いられていたのか、正しくはどのように表現すべきなのかといったことを、フリップを使ってプレゼンテーションする。誤用かどうか確認したり、正しい表現を調べたりするには、『明鏡』の「注意」「使い方」の解説が役立つ。事前指導として文化庁のホームページにある「国語に関する世論調査」の結果などを示して、誤用の

「明鏡」には、誤用などから正しい見出しを引ける索引（次ページ）が付いている。この索引を使つて、たとえば「合いの手を（a打つ／b入れる）」「事件が明るみに（aなる／b出る）」「決戦の（a火蓋／b幕）が切つて落とされる」の正しいほうを選ぶといった問題を作成させる。漢字や仮名遣いなどテーマを設けてもよいだろう。作つた問題を隣同士で交換して解かせたり、タブレット等を活用して、クラス全体で共有したりするのもよい。毎授業の最初にペアで自作テストを行う、正答率を競い合うなどの工夫によって、ゲーム感覚で楽しみながら語彙を増やすことにつなげられるのではないだろうか。

ほうが一般的になっている表現もあることなどを確認しておく、誤用例を探すヒントにもなる。フリックによるプレゼンテーションはテレビ番組などでもなじみがあり、高校生にも取り組みやすいだろう。わかりやすく効果的に伝えるプレゼンテーションのトレーニングにもなる。小グループ内で発表してグループの代表者を選出し、グループ代表によるクラス発表などと段階を設けることで、プレゼンテーションが苦手な生徒も取り組みやすく、表現活動への準備としても有効だろう。

おん-の-じ「御の字」「名」 大いにありがたい。三一万円ももらえればーだ。▼「御」という字をつけて感謝したいの意。①「恩の字」と書くのは誤り。②十分ではないが、一応、納得できるの意で使うのは誤り。

したの「ね」舌の根」名「舌のつけね」
 ◎舌の根の乾かめうち そのことは言い終わるか終わらないうちに。「一うそをつく」◎注釈「舌の先の乾かめうち」を誤。

ぶせん「▼」慄然「形動」落胆したりあきれたりして、呆然然とするさま。「一」として立ち去る。「一」たる思いで立ちすくむ」▼「慄」は「つかりする意」。「便」方俗にむつとする意にも使う。「一」として反論する」

▲「平成30年度国語に関する世論調査」で取り上げられた語の『明鏡国語辞典 第三版』での解説



【索引・誤用情報】敬語チェック

古文の敬語学習へのウォーミングアップ
敬語は社会人の常識として必要とされるものであると同時に、高校生にとっては古文学習において苦勞する項目でもある。敬語の誤用を正すグループワークによって、正しい敬語の使い方を習得させたい。誤用を含む文章を提示して、三～四人のグループで辞書を使いながら添削する。『明鏡国語辞典』の索引は誤った使い方を調べる事ができるので、正しい用法に直すことも難しくない。「参る」「申す」「いただく」など古語にも共通する敬語の添削ワークは古文の学習にもつなげやすいだろう。

索引

！ 参る
 休暇でハワイへ 参ります／
 ×伺います
 →うかがう**【注意】**
 →参る**【使い方(2)】**

！ 参る
 ×参られますか
 →参る**【注意】**

まい・る【参る(マ)詣る(ミ)】**【動五】**①(多)く「参ります」の形で「行く」「来る」の丁寧語。相手(「聞き手・読み手」)に対する改まった気持ちを表す。「三時にお宅に「参ります」「花子の親に向かつて」「花子さんの結婚式には母が「参ります」「当地に「参ります」三日になります」「向こうから人が「参ります」ので、道を聞いてみましょう」「先生、お下がってください、電車が「参りました」」**【使い方(1)】**「伺」が、訪問したり行ったりする先の人物を高める敬語であるのに対し、「参る」は丁寧な物言いをして相手(「聞き手・読み手」)に改まった気持ちを表す敬語。たとえば佐藤氏に向かつて「田中氏のお宅に伺います」「参ります」という場合、「伺」は訪問する先の田中氏を高め、「参る」は聞き手である佐藤氏に対する丁寧さを表す。
【使い方(2)】「参る」は必ず高める人物がいる場合に使って、「参る」は高める人物がいない場合にも使える。「「休暇でハワイへ「参ります」」「参ります」「取引先の社長に向かつて」「先日、うちの会長の別荘に「参りまして」「参りました」……」
【注意】「参る」を尊敬語のように使ったり、ほかの尊敬語と組み合わせたりして、他人の動作をいうのは誤り。「×先生は祝宴には参られますか」「×ご面会の方が受付に参っていらっしゃいます」
②「古風」へ多く命令形で「行く」「来る」の尊大語。目上の人が目下の人の行為を低めていう。「その方は一足先へ「参れ」「参れ」「参れ」「参れ」
③「古風」「行く」「来る」の庄重語。重々しくもつたいを歩いている様子を表す。

辞書本文

国語便覧で語感を磨く

言葉の背景に目を向ける

■はじめに

高等学校の国語科の授業にとって、国語便覧は欠かせない教材です。(入学してきたばかりの高校生は、私の退屈な話は耳に届かず、夢中になって読んでいます)。特に近年の国語便覧は、内容豊富で次々新しい情報が更新される印象です。新しい学習指導要領においても、国語便覧が大切な道標になることでしょう。

たとえば、新学習指導要領「言語文化」においては、「知識及び技能」の項目で、「言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること」「我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し……文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすること」といったことが設定されています。

おくむらじゅんこ 奥村準子

筑波大学附属高等学校教諭



このような言葉に注目した授業を行うにあたって、国語便覧を効果的に活用することで、多様な活動が展開できると思います。

魅力的な授業が展開できる時は、便覧から目を離さない新入生も「面白そう」と私の話を聞いてくれることがあります。その実践例をご紹介します。

■【実践例1】 翻案でことばを豊かにする

豊かな四季のうつろいを繊細に表現することばを古典の分野で生徒に実感してもらう機会が多くあります。たとえば、「古典の世界の年中行事・四季の風物・襲の色目・俳句の季語・二十四節気と月の異名」などの情報から、生徒は自分の知らない「季節(や時間帯)」を表現する言葉に出会います。温暖化や気候変動の影響を



受けて、現代の季節感覚は古典のそれとズレが大きく
なっているように思います。しかし、私たちは伝統的な
感覚も享受しながら日本ならではの年中行事を継承し、
近年はこれが海外にも広がっています。便覧を活用して
古典の世界から語彙を豊かにする活動は重要です。
私は授業で、小倉百人一首の恋歌を翻案して物語をつ
くる言語活動を実践しています。次のような手順です。

【百人一首の恋歌翻案】

- ① 好きな一首を選び、修辞や成立事情を確認する。
- ② 当時の風物や人間関係を現代にあてはめて翻案
する。

百人一首の恋歌には様々な修辞がありますが、たとえ
ば「有心の序（意味上の関連のある序詞）」を翻案する
場合には、現代の高校生に共感できる比喩表現にあては
めて探す作業が重要になってきます。この場合にも、古
典の語彙を豊かにすることで、現代との「つながり（共
通点）探し」を実感することが多いように感じます。

【実践例2】平安貴族社会を多面的にとらえる

『今昔物語集』『阿蘇の史、盗人にあひてのがるること』

では、平安京図、牛車、装束、官位相当表などの情報を
伝えたくて便覧をフル活用します。

この説話のおもしろさは、盗人との遭遇を予見した「阿
蘇の史」が、牛車の中で自分の着ていた装束を脱いで隠
し、盗人に「君達（他の盗人）がいらっしゃって私の装
束をお召しになりました」と、度胸のある応答をする場
面にあります。牛車に乗る時間感覚や距離、当時の装束
の価値（公事からの帰宅ですからおそらく束帯姿であり、
盗人もこれを狙ったと思います）、機転も利く史の身分
が太政官の第四等官という下級役人であることを理解す
ると、生徒も説話の魅力に共感してくれそうです。

特に史の「冠と襪だけで笏を持つ姿」は、冠を外すこ
とを恥とする当時の男性貴族の感覚を考えると、「裸だ
けど礼儀正しい」姿でもあり、生徒の笑いを誘います。
このように、便覧をつかうことでこの説話のおもしろさ
がぐっと際立ちます。単に言葉の意味を知るだけではな
く、その文化的背景にも目を向けることが大切です。

■まとめ

国語便覧の一番の特性は、たくさん情報提示と利便
性にあると思います。インターネット世代の高校生でも、
「まとめてある情報」と、関連情報へのリンクの張り方

におもしろさを見つけて読んでいるのだと思います。新
しい国語便覧がどのような情報を盛り込んでくれるか、
期待しています。



『ビジュアルカラー国語便覧 改訂版』
「男性の装束」「乗り物」より



『トータルサポート国語便覧』「小倉百人一首」より

表現力向上！ 身体で覚える語彙指導

国語便覧で語感を磨く

あだちかずたか
安達和貴

東京都立武蔵中学校・高等学校教諭



新しい学習指導要領を踏まえて「話すこと・聞くこと」「書くこと」を重視した授業を実践するときに、生徒にとって壁になるのが表現力不足です。「教材の内容は読み取れているけれど、読み取ったことをどう書いていいのかわからない」「自分の考えはあるのだけれど、どう言えばいいのかわからない」といった理解と表現の間にある壁を超えるために、本稿では国語便覧を活用した語彙の指導方法について取り上げます。

重要なのは、語句を「使うこと」を通して、語感を磨き語彙を豊かにする「ために」「語句の量を増やすこと」と、「理解を深めること」の両面を工夫することです。

従来の語彙指導では、教材に出現する語句の意味調べや、現代用語集のような副教材を使用しての暗記テストなど「語句の量を増やすこと」に終始することが多かった。

□それぞれの意味を確認し、例文を作ろう。

この時、場面による語句の使い分けも意識させましょう。生徒相互に確認させます。

○「証人を尋問する」×「授業で拳手をして尋問する」
×「何か詰問はありませんか。」

□「詰」「問」を使った熟語や慣用語を探そう。

「詰詰」「詰襟」「面詰」「不問」「査問」「問屋」「問答無用」「問鼎軽重」「問牛知馬」「望聞問切」「博学審問」「理詰めより重詰め」「問うは一旦の恥問わぬは末代の恥」「知って問うは礼なり」……おそらくはまだまだ出てくるでしょう。こつこつと調べて調べた語句について、短い例文を作ること、を繰り返すと、生徒の表現力は飛躍的に向上します。

また、そもそも教材の内容が読み取れない場合や、初見の文章に挑ませる場合は、事前に国語便覧で言葉の背景知識を学ばせておくといでしょう。大学入試で出題される評論文の内容や小論文のテーマは、何も知識がないと理解に時間を要するものも多く、テーマごとの知識や基本的な議論の枠組みを事前に確認させておくことで理解の助けになります。そして、読み取った文章の内容や議論の展開を、事前に確認したキーワードの背景知識と比較し関連付ける機会を設けるようにしましょう。

たかもしれません。そこで、「実際に語句を使うこと」「語句や語彙の理解を深めること」を意識的に加えてみてはどうでしょうか。

■【実践例】 類語探して語感を養う

「といって、こしらえごとを話してもらおうとすれば、奥さんからその理由を詰問されるに決まっています。」
(夏目漱石「こころ」)

□「詰問」の意味を確認し、類語を考えよう。

「質問」「尋問」「非難」「糾弾」くらいはすぐにでてくるでしょうか。「難詰」「糾問」「面詰」「詰責」あたりが出てきたら褒めてあげましょう。あまり出てこない時こそ、国語便覧や辞書を使わせます。

国語便覧ではSDGsをはじめ、AI、ビッグデータ、一八歳選挙権、子供の貧困、ワーク・ライフ・バランスなどの頻出テーマがまとめられており、これらを理解することで評論の読解や小論文の執筆に役立ちます。

生徒の資質・能力を伸ばすために、もっと国語便覧の活用方法を工夫して、授業改善に努めたいものです。



▲「トータルサポート 新国語便覧」
『ビジュアルカラー 国語便覧 改訂版』より



Twitter 投稿企画

便覧、どう使っていますか？

国語の授業で便覧をどう使っていますか？

全国の先生方から、小社編集部「Twitter アカウント」に、実践例をお寄せいただきました！
参考資料としての利用はもちろん、ユニークなアクティビティ・ラーニングに活用している例も、情報満載の便覧を使いこなして、授業の活性化につなげていきましょう！



・「平安期の貴族の装束」の図を見て、値段を想像させてから推定価格を提示し、その後で「袖を破って和歌を書きつける」「褒美として羽織を召し取らせる」といった場面がいかにか心打つものなのか実感させる。(東京都・20代)

・『平家物語』をはじめとした古文の授業を行う際に、その時代の装束について確認をすることでイメージを明確にする。(東京都・30代)

・必ず前後の時代や現文なら古典・古典なら現文と、様々な項目を関連づける。(千葉県・40代)

・新たに知ったことに付箋をつけて、知識を積み重ねた跡を残す。(神奈川県・40代)

・和歌の枕詞一覧のページからランダムに語句を指定し、その指定された語句を用いて各自で和歌を詠む。ペアワークで相手が詠んだ歌に対して、技法一覧を活用しながら返歌を詠む。(東京都・20代)

主要な枕詞	
枕詞	かがる語の例
日・朝日・昼・暮・照る	大和
小野・己	あしひきの
山・峰・尾上・岩	あしひきの
年・月・日・暮・夜・経	あしひきの
海・浜・瀬・波・瀬	あしひきの
身・命・世・味・母・現し心	あしひきの
三津・二重・神奈・御山・鈴鹿	あしひきの
なびく・名張	あしひきの



・ことばと表現編が充実しているので、読書感想文の書き方、レポートの書き方などの指導に使っています。構成の取り方が具体的で、完成例文もついているので生徒は学習のイメージをしやすいようです。(静岡県・40代)

・文学史の学習の際に使用します。教員が短い時間内で教えられることは限られますが、関心のある生徒はプラスαの知識を得ているようです。一瞥して情報が入るので、ネットよりも重宝しています。(東京都・30代)

・便覧に載っている詩を参考に表現技法、詩人、作品を紹介する。その後気に入った作品を生徒に紹介させる。教科書に掲載されている以外のたくさんの詩に触れさせることで詩創作の切り口を保証する。(海外・20代)

・現在活躍中の評論家を一覧し、共通テストに出る筆者を予想する。(愛媛県・40代)

・自宅学習中に評論の要約を行わせた。便覧に付属している『活用ガイド』を用い、まなび動画 Navi にアクセスさせて、文章の構成を考える動画を視聴させた。学校再開後、生徒同士で相違点を指摘しリライトさせた。(東京都・30代)

今回、投稿を募集した Twitter アカウント「大修館書店 国語編集部」(@Taishukan Kokugo) では、新刊のご案内や「WEB 国語教室」更新のお知らせのほか、国語に関する気になるニュースも発信しています。



Twitter フォローは、
左のQRコードから！



誰の肝煎りなのかが、 この話のキモだって？

「さあ、ここ、ここだよ。ちゃんと覚えておいてね、必ず試験に出るから、ここがきょうの授業でいっちゃん大事。この単元の××だよ」——全身全霊を傾けて訴えたいときってありますね。××のところ、何と言いますか。

*

若い世代に伝わりやすいのは「キモ」でしょうか。漢字で書けば、「肝」、肝臓です。代謝を受け持つ大事な臓器で、心が宿る場所とも考えられたことから、「肝が太い」「肝が据わる」のように、精神、気力を指しても使われます。ただ、ゆるがせにはできないイメージがあるとはいえ、「この単元のキモ」「ここがキモだよ」などは比較的新しい使い方です。『日本国語大辞典』には、「物事の重要な点。急所」の意味が載っていますが、用

うです。ついでに、本来の意味と使い方を紹介して、言葉の変化の面白さを知ってもらう材料にもしてみてください。

*

もともと、毎回「ここがキモだ」では、効果が薄れてきます。別の言葉も探してみると……、ツボ、要所、要、眼目と来て、「さわり」が頭に浮かんだ方はいませんか。「さわり」は本来、義太夫節の曲の中の聴きどころを言い、そこから「さわりだけ聴く・読む」のように、最も印象的な箇所を指して使われます。語源からすると、楽曲や物語といった芸術作品について用いるのがふさわしい感じがしますが、『広辞苑』は「要点」という言葉を語釈に入れています。平成一九年度「国語に関する世論調査」では、しばしば誤用と指摘される「話などの最初の部分のこと」に対し、「話などの要点のこと」を本来の意味として選択肢にしました。実用的な文書で「さわり」に該当する箇所は「要点」ということになるかもしれません。

*

さて、『明鏡』ではもう一か所、「肝」絡みの言

関根 健一

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に『なぜなに日本語』『ちびまる子ちゃんの敬語教室』（集英社）など。『明鏡国語辞典 第三版』編集・執筆協力者。

例は室町から江戸時代のもので、現代の用法とは直接、関係なさそうです。現代語・新語を集めた『現代用語の基礎知識』（自由国民社）、『イミダス』（集英社）に初めて載ったのは、ともに一九九一年版でした。イミダスには「風俗・感覚語」として、「ステキの意」とも書かれていて、新語が広がり始めたときにありがちな用法の揺れがうかがわれます。

「肝腎」「肝要」といった熟語に引かれ、「キモ」という歯切れのよい語感も手伝って「要点、ねらい」の新用法が定着したのでしょうか。そこで、『明鏡国語辞典 第三版』では、新語、新用法であることを示す「新」マーク付きで、この意味を追加しました。まぶたが重くなり始めた生徒たちの注意を促すには「ここがキモだぞ」の一言は効きそ

葉「肝煎り」に、「新」の語釈を追加しています。「肝を煎る」ごとく、あれこれ悩み、心をくだき、口添えしたり取り持ったりして、あれこれ差配するのが「肝煎り」です。頼まれて（お節介な人は頼まれなくても）仲介・紹介する行為について用いられてきました。

徳川幕府には「高家肝煎^{こうけきあん}」なる職があり、「忠臣蔵」の敵役・吉良上野介^{きちょうのすけ}も就いていました。月番制で、儀式などを司る高家の中での責任者、世話役といった性格の役目だったようです。

ところが、最近では、「社長の肝煎りで始めた新事業」「首相肝煎りの布マスク配布」のように、単なる仲介役・世話役にとどまらず、自ら提案し、先頭に立って旗を振るような場合にも用いることが増えています。『明鏡』の解説でも、「〔新〕意見や考えを、中心になってとなえること。主唱。発案」としました。新聞やテレビではむしろこちらの使い方が主流になっています。「肝煎り」の新用法には、「肝」が持つに至った「要点、ねらい」のイメージが投影されている気もします。



コロナ禍における リアルとオンラインの 学びの往来

江川 順一
えがわ じゅんいち

立命館慶祥中学校・高等学校 校長

はじめに

今年度、新型コロナウイルス禍によって、全国の学校は未曾有の対応を迫られた。立命館慶祥中高は、これまで生徒に共通端末を購入させず、一部の授業において生徒個人所有のスマホ等を活用した授業実践を行ってはいいたが、学校を挙げてICT教育を行う先端校ではなかった。そこで、学校法人立命館は、新型コロナウイルス対応のため二五億円の財政出動を行い、五附属校および二大学で学ぶ児童・生徒・学生の通信環境および端末整備のための支援金を補助した。このことにより、附属校はオンライン授業を本格的に実施することが可能となった。本校は四月こそ休校としたが、五月にはオンライン授業を全面的に実施、六月には分散登校を実施した。生徒も教員も、もちろん初めての経験であつ

と呼び、学習形態の異なる①～③の組み合わせにより、オンラインとリアルとの相乗効果を狙う。

一例として、二年生古典の授業実践を報告したい。今回の単元では、①は教材・解説を提示、生徒が「自ら学ぶ」時間とし、②を理解が不十分な部分の解説や質疑応答の時間とした。登校時の③では、①・②の学びについて生徒の定着度を測るため学習理解度確認テストを実施した。

2. 単元の目標

本単元の概要については次のとおりである。

- 対象：高校二年 ○科目：古典（三単位）
- 教材：「病入膏肓」（春秋左氏伝）
- 学習目標
- 【知識・技能】
 - ・書き下し文の基本的ルールを確認し、正しく読むことができる。
 - ・本文中の句法を正しく読むことができる。
- 【思考力・判断力・表現力】
 - ・話の内容を理解することにも、景公がこの医者「良医」と認めたのはなぜかを説明することができる。

3. 単元の構成・内容

本単元は十時間で表1のように構成した。

(1) 課題配信型授業（PowerPointの活用）

本授業では、事前に宿題として、ノート作りと本文の書き下し文作成を指示。PowerPointを用い、訓読と書き下

た。本稿は、ICT推進の「まずまずの学校」が、新型コロナウイルス禍にあつてどのように対応したかを報告するものである。

1. オンライン授業とリアル授業

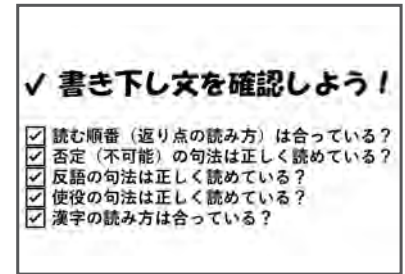
オンライン授業は、新しい教育の地平を展望しようとするチャンスである。オンラインへの生徒の集中力はリアルより短いため、生徒はリアル以上に「自ら学ぶ」姿勢が求められ、教員にも、単なる授業の配信ではなく、生徒が「自ら学ぶ」活動を担保する場面を要求するからである。

ここでは、オンライン授業の方法について、生徒が配信された課題に取り組む授業を①「課題配信型授業」とし、オンラインで接続しリアルタイムでやりとりする授業を②「双方向型授業」と二つに区分することとする。また、①②の授業に加え、登校し対面で行う授業を③「リアル授業」

し文、重要句法を確認する学習（次ページ図1・図2）の後、現代語訳と本文内容の学習を行った。課題配信型授業のデメリットは、生徒の理解を確認しつつ配信しなければ、生徒を置き去りにしてしまうことである。この対策として、授業の前後に、Google フォームを用いたアンケートを実施した。前者は、本時の学習内容や目標学習を明確にすること、後者は、生徒の理解度を把握することを目的とした。

授業形態	校時	内容
オンライン	3・2・1	【本文前半の学習】 ・課題配信型授業（PowerPoint活用） ・双方向型授業（Zoom活用）
	6・5・4	【本文後半の学習】 ・課題配信型授業（PowerPoint活用） ・双方向型授業（Zoom活用）
	7	【句法知識の定着】 ・課題配信型授業（PowerPoint活用） ・句法の練習問題（再読文字・使役等） ・双方向型授業（Zoom活用）
リアル	10 9	【学習理解度確認テスト実施】 【学習理解度確認テストの解説・まとめ】

【表1】単元の構成・内容



【図1】



【図2】

- ⑦ ハワボを見て内容をだいたい理解することができた。
 ⑧ 句法理解できました。内容もつかめました。
 ⑨ 現代語訳はもつと復習しなければいけない。
 ⑩ 最後の部分がよく理解できない。
 ⑪ 昨日よりも理解が深まってよかった。
 ⑫ 昨日できなかった現代語訳がスラスラできるようになった。
 ⑬ 前回、理解できなかったところが理解できてよかった。
 ⑭ 語句の意味も理解できたし、内容もなんとなく分かってきた。
 次回は今度も一度振り返って完璧にする。

【表2】生徒の振り返り例

(2) 双方向型授業 (Zoom の活用)

本授業については、課題配信型授業で行ったアンケートから補足が必要な点を洗い出して解説を行い、生徒の理解を深めた。Zoom を用いた授業により生徒の表情を見ながら行う双方向型授業は、リアル授業には及ばないものの、発問に対する生徒の反応から理解度を把握して臨機応変に対応することができる。

(3) リアル授業

リアル授業では、オンライン授業の学習の定着を測る目的で、学習理解度確認テストを実施するとともに、本文中で学習した重要句法についての解説を行った。

ということである。例としてAさんの変化を表3に示す。

Aさんの問一の答えは正答だが、問二の答えは根拠がない(傍線部)。同様の解答は他の生徒にも多く見られたため、Zoom による双方向型授業で解説を行った。解説後の生徒の解答は、正答へと変化した。また、振り返りの記述では、自身の解答を見直し、学び直したことを振り返っている。このように、各生徒が学習の中で生まれた疑問点を解決したり、軌道修正したりすることが、双方向授業を円滑かつ効果的に進めることの肝である。

【課題配信型学習における課題内容】(太字・傍線は筆者)	
問一	景公がした「礼」とは何に対する「礼」か。
問二	景公が医者(の緩)に「良医也。」と言ったのはなぜか。
【課題配信型学習におけるAさんの答えと振り返り】	
問一 答え	医者の緩が適切な診察をしてくれたこと。
問二 答え	治せない病気が分かって最後まで丁寧に診察してくれたから。
振り返り	ちよつと不安なところもある(理解度五〇%)けれど、ハワボをよく見て大体は理解できたと思う。
【双方向型授業におけるAさんの答えと振り返り】	
問一 答え	医者の緩が適切な診察をしてくれたこと。
問二 答え	緩の診断は、景公が夢で見た二豎子の言葉と一致しているから。
振り返り	大体OK！(理解度八〇%) 勘違いして覚えてしまったところを、学び直せてよかった。

【表3】Aさんの回答・振り返りの変化

5. 今後の課題

今回のオンライン授業の課題は、リアル授業のメリットである、生徒同士の対話的な学びを十分に取入れられなかったことである。Zoom の機能であるブレイクアウトセッションを用いて、対話的な学びの実現を追求したい。現在、通常授業が再開されたが、リアル授業の中に生徒の自ら学ぶ姿勢を継続できる課題設定と、双方向授業の対話的な学びについて検討していく必要がある。

本報告は国語科の気鋭の若手である岩倉衣梨奈教諭による二年生古典の授業実践である。新型コロナウイルス禍によって、全国の学校において、全教科がオンライン授業の実施を求められ、気概のある先生による意欲的な実践が多く生まれたと推察する。本校の教員もClassi とOneDrive を生徒との連絡ツールに用い、ロイロノート等各種ソフト・コンテンツを縦横に取り扱い、オンライン対応のアイデアを捻出した。本校においては、新型コロナウイルス禍の状況下でどんなことができるのかを、全教職員が考えて挑戦し、前進しようとしたことが何よりの収穫であった。「With コロナ」時代を踏まえ、立命館慶祥としては、リアルとオンラインの学びを往來し、その利点を最大限に享受するとともに、一層の意欲的な実践を開発し、自らを成長させるスキルと学力を持った生徒を育成したい。

はじめよう！
新課程への準備

今さら聞けない

「現代の国語」「言語文化」 ってどんな科目？



やました
なおい
山下直

文科大学教授

新しい高等学校学習指導要領（平成三〇年三月告示）では、「国語総合」が「現代の国語」と「言語文化」という二つの科目に分けられました。これまでの指導要領から大きく変わったと言われていますが、新課程に向けてどのような準備をしていけばいいのか、もう一度基本的なところから確認していきましょう。

1 「国語総合」を現代文と古典に分けたわけではない

表1は、「現代の国語」「言語文化」及び「国語総合」の領域ごとの配当時間を示したものです。この表を見ると「現代の国語」と「言語文化」の科目の特徴を一目で捉えることができますね。「現代の国語」と「言語文化」は「国語総

きましよう。

また、「現代の国語」と「言語文化」の各領域の配当時間を合計したものを、「国語総合」の各領域の配当時間と比べてみると、ほぼ変わっていないこともわかります。新課程の科目では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が「国語

	現代の国語 (70 単位)	言語文化 (70 単位)	国語総合 (140 単位)
話す・聞く	20～30 単位 時間程度		15～20 単位 時間程度
書く	30～40 単位 時間程度	5～10 単位時間 程度	30～40 単位 時間程度
読む	10～20 単位 時間程度	60～65 単位時間 程度 40～45 単位 時間程度→古典 20 単位時間 程度→近代以降	80～95 単位 時間程度

表1：科目ごとの配当時間数

合」の140単位時間（一週間の授業回数に換算すると四回）を半分の70単位時間（一週間の授業回数に換算すると二回）ずつに分けています。「現代の国語」はそのうちの50単位時間以上を「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習の時間に配当することが示されています。一方、「言語文化」は「読むこと」の学習に60～65単位時間程度を配当することが示されています。

このことから、「現代の国語」は「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習に重点が置かれた科目、「言語文化」は「読むこと」の学習に重点が置かれた科目と言うことができます。「現代の国語」が現代文分野で「言語文化」が古典分野というような分け方ではないことを確認してお

総合」よりも10単位時間程度増え、「読むこと」が10単位時間程度減っていますが、これを以て「読むこと」が激減したということはできないのではないのでしょうか。つまり、「現代の国語」と「言語文化」は領域ごとの配当時間については「国語総合」の配当時間をほぼ引き継いでいますので、年間指導計画を学習指導要領に沿って作成していれば、これまでとそれほど大きく変える必要はないということになります。ただ、実際には年間の指導において「読むこと」に多くの時間を割いてしまっている場合もあるかもしれません。そのような場合には、「現代の国語」では「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が、これまでよりも強調されているという意識を持つようにすると、新課程への準備が比較的スムーズに進むのではないかと思います。

2 「現代の国語」は実用、「言語文化」は教養

「現代の国語」が「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語文化」が「読むこと」に重点を置いた科目であることは確認しましたが、それぞれの中身についてももう少し詳しく見てみましょう。二つの科目の中身の違いは【知識及び技能】の指導事項を比べてみるとよくわかります。

次ページの表2は、二つの科目の【知識及び技能】の指導事項の数を示したものです。この表を見ると、「現代の国

	現代の国語	言語文化
言葉の特徴や使い方	6	5
情報の扱い方	5	0
我が国の言語文化	1	6

表2：「現代の国語」と「言語文化」の【知識及び技能】

語」は「情報の扱い方」に関する事項が5項目設けられています。一方、「我が国の言語文化」に関する事項は1項目しかありません。一方、「言語文化」は「情報の扱い方」に関する事項は設けられておらず、「我が国の言語文化」に関する事項は6つ設けられています。

「情報の扱い方」に関する事項は、論理的思考力の育成と深く関わる事項です。「現代の国語」では「話すこと・聞くこと」「書くこと」の土台となる論理的思考力の育成が目指されていると言えるでしょう。これは、実社会で自分の意見を主張する場面などに役立てることが期待できます。その意味で、「現代の国語」は実用に重点を置いた科目と言えます。

一方、「我が国の言語文化」に関する事項は言語文化についての認識と深く関わる事項です。古典から近代以降の文章を対象に、作品の歴史的背景、表現の面白さ、言葉の変化などについての認識を深めることが目指されていると言えるでしょう。「現代の国語」が実用に重点を置いているの

に対して、「言語文化」は教養に重点を置いた科目と言えるでしょう。

3 「現代の国語」の授業―「読む」活動はなくなるなら

さて、「現代の国語」が「話すこと・聞くこと」「書くこと」に重点を置く科目と聞いて、文章を読む経験を積み機会が減ってしまうのではないかと不安に感じている先生方もいらっしゃるかもしれません。しかし、そのような心配は無用です。「現代の国語」は「読むこと」の配当時間は減りましたが、それは文章を読む活動をしてはいけないということではないからです。例えば、「現代の国語」の「書くこと」には次のような言語活動例が示されています。

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。

この言語活動例では、自分の意見や考えを論述するために論理的な文章や実用的な文章を読む活動が想定されています。したがって、この言語活動を行うためにはまず「読む」活動を行う必要があるわけです。このように「書くこと」の単元であっても、単元の中で「読む」活動を行うことは十分にあり得ますし、学習指導要領もそのことを想定

していることがわかります。

これは「話すこと・聞くこと」の単元でも同じです。話したり書いたりする（発信する）ために、文章を読むことが有効な手立てとなることは多くあるはずです。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習に重点を置くと文章を読む機会が減るということではないのです。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元に、文章を読む活動を取り入れることには何の支障もないのです。

4 「言語文化」の授業―「読むこと」の多様な学習に挑戦

「言語文化」は「読むこと」に重点を置く科目ですので、授業を行う際にも、「国語総合」の「読むこと」の指導で蓄積した成果を生かして欲しいと思います。

ただ、「国語総合」では一つの文章とじっくり向き合うことが多かったと思いますが、「言語文化」では多様な文章を同時に読みながら、考えをまとめていくような経験を積ませる単元にも挑戦してほしいと思います。

「言語文化」の「読むこと」の言語活動例には、「解説、評論、随筆、小説、物語、和歌、俳句」という多様な種類の文章が挙げられています。また、内容を読み取るだけでなく形式について批評したり、異なる時代に成立したものを比べたり、表現の技法について調べたりすることも求め

られています。つまり、「国語総合」に比べて取り上げる文章の種類も文章を分析する観点も、ともに多様になっているということですね。

ただ、「国語総合」の指導に慣れている先生方にとって、いきなり年間の全ての単元を多様な文章を多様な観点で分析するような指導に変えることは難しいでしょう。また、「言語文化」でも一つの文章とじっくりと向き合う読み方が否定されているわけではありません。

はじめのうちは年間で一度もしくは二度、このような単元に挑戦してみて、慣れてきたら少しずつ移行していくというのも良いかもしれません。

今さら聞けない
「現代の国語」「言語文化」の
ポイント

「現代の国語」

- ・ 実用
- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」中心
- ・ 文章を読む活動を取り入れてよい

「言語文化」

- ・ 教養
- ・ 「読むこと」中心
- ・ 多様な教材・多様な活動



詩の教室へようこそ

第一回「ほんとうのうた」の扉へ

和合亮一

福島県立本宮高等学校教諭。第一詩集にて、中原中也賞、第四詩集にて晩翠賞受賞。二〇一一年の東日本大震災で被災した際、Twitterで「詩の礫」を発表し話題に。詩集となり、フランスにて詩集賞受賞（日本人初）。二〇一九年、詩集『QQ』で萩原明太郎賞受賞。校歌合唱曲作詞多数。

＊時空間の発見のようこそ

よし。今日は朝の四時に起きることが出来ました。これで出勤まで、およそ二時間ぐらいいは机に向かうことが出来ます。もちろん、いつも上手くいくわけではありません。

元々は学生時代から典型的な夜型人間でした。しかし現在は午後十時には寢床に入り、午前四時過ぎに起床するというのが、自分にとって最も良い形となっています。もはや正反對の暮らしをしています。

連載の冒頭から何の話かと思われているかもしれませんが。早朝の時間に詩を読んだり書いたりすることの楽しさや自由を感じてきたことをまずは伝えたいだけなのです。夜明け前の感覚。言わば起きがけの半覚醒

のような状態とこれから日常を送ろうとする意識とが交わる時空間にて、最も心の中に言葉が湧き出してくる気がするのです。その時をぜひとらえたいといつも思っています。

そもそも詩とは多かれ少なかれ、時空間の発見そのものに満ちている文字であると言えらるのではないかと思います。例えばそれは、

宇宙はどんどん膨らんでゆく
それ故みんなは不安である

二十億光年の孤独に
僕は思わずくしゃみをした

という谷川俊太郎の代表詩の一つの詩句

＊震災の体験から生まれた詩

ここで震災の年の直後に書かれた詩を少しだけ紹介したいと思います。当時小学校五年生の菊田心くんの書いた「ありがたう」という作品です。

文房具ありがたう
えんぴつ、分度き、コンパス大切にします。

花のなえありがたう
お母さんとはちに植えました。
花が咲くのが楽しみです。

うちわありがたう
あつい時うちわであおいでいます。

津波の被害を受けてしまい、しばらく気仙沼の避難所にいた彼が、生まれて初めて書いた詩です。

応援の言葉ありがたう
心が元気になりました。

においても、独特の宇宙への感覚が宿っていることがとても伝わってきます。

ちなみにこの詩は出発作の一つですが、青年期独特の憂鬱や孤独感と、ユーモアの隠し味とが混ざっているスケールの大きな一篇です。数々の彼のその後の作品世界をスタート地点から占っているかに見えてきます。本人とお会いして雑談した折にこの詩に触れながら「今は宇宙の年齢は二十億光年ではなくて、一三八億光年と判明しているから、いつか書き直さなくちゃいけないのかもね」といたずらっぽく笑っていたことを良く思い出します。こんなふとした一言からも、はるかなる彼方の時と空間への深遠なる眼差しのようなものが感じられますね。

例えば学校生活においては時間割が絶対

たくさんの方の支援について感謝の気持ちを伝えたいと思い、素直な気持ちを綴りました。そして最後にこのようにまとめています。

最後に
おじちゃん見つけてくれてありがたう
さよならすることができました。

涙を禁じませんでした。最後の「ありがたう」が、他とは全く違うものとして心に強く響いてくるのが感じられました。そこに祖父と自分との歳月の重みが託されているのが良く分かりました。波にさらわれてしまった祖父との死別の悲しみや寂しさと共に、それを乗り越えて生きていこうとする菊田君の成長が見えた気がしました。時が経って、このような作品とも出会いました。

海の声 聞こえる心に 変化あり

に欠かせないものであるように、私たちは社会という名のもとにタイムスケジュール通りに行動することが求められ、それに従って生きています。しかし感性や感覚というものは、何にも縛られずに育っていきたいものなのです。正に「どんな膨らんでゆく」。そして心の姿は決して横並びではありません。

だからこそ詩を分かち合うことの面白さとは、そこに託されているそれぞれの気持ちや感性・感覚の自由を共に味わうことにあると思います。それを真ん中に置いて、人生や社会、生きることの意味を感じて、考えていくこと。そこに新しい発見と感動が必ずあります。

まずこれは国語教師としての自分の指導の日々を振り返ってみての感慨ですが、現在の国語教育の現場において、残念ながらそうした機会がいささか足りないように思っています。詩を書き、読むことを愛する者として、同じ時代を生きて共鳴し合うことのかげがえのなさを、もっと知りたいと願っています。

津波の大きな被害のあった福島県海沿いに暮らしている、当時は小学生であり、現在は中学校に通っている女子生徒の一句です。震災から五年ほど経った頃のある日に書かれた心の呟きのような言葉に触れて、やはり気持ちの変化と成長とが見えた気がしました。

津波を経験したばかりの子どもの耳には、たとえそれがその後の海辺の静かな風であったとしても、ひどく恐ろしい「海の音」として届いていたに違いありません。しかし歳月を経て、変わることもない同じ波の音であるのに、どこか違って聞こえ始めていることがうかがえました。

たとえばほんのわずかな「ありがとう」や「変化あり」の一言であったとしても、その背後に震災という大きな何かが抱えられている時、言葉を超えて迫ってくるものがあることを教えられました。

※人生の今を深く見つめて

最近に出会ったばかりの素敵な作品も紹介したいと思います。「時速一〇〇km」とい

う、宮城県の中学生の久保観さんの詩です。二連構成の短い詩。一連目はこのように書かれています。

夜のハイウェイ
繰り返す群青の山々とテールランプ
戦後を伝えるカーラジオ
ミラーに映える小さなオレンジ火花
はじける夏の寂しさと危うさ
家族と向かう
故郷を迎える
夏と夏がすれ違う
東北道下り線

とてもテンポが良いのは、体言止めが多用されているからだと思います。帰省の時、心地よいスピード感。夏の盛り。二連目はこんなふうにとめられています。

朝のハイウェイ
通り過ぎる風と雲
ラジオからは甲子園準決勝
祖母手作りの葡萄ジュース
青くさい夏の甘さとほろ苦さ

思いつく思いを一杯に詰め込んで
夏と秋がすれ違う
東北道下り線

これは帰り道。一連目の「夜」という出だしに対して「朝」からの始まりだったり、暗闇の「テールランプ」に対して眩しい朝方の「風と雲」だったり、「下り」ではなく「上り」であったり、様々に対位法が用いられていて、読む側にくつきりとした印象を与えています。

一連目の「夏と夏とがすれ違う」。なるほど。行き交う車を季節に見立てているのがユニークです。二連目ではそれが「夏と秋」に変わっていく。歳月の移り変わりがきちんと受け止められています。季節の変わり目を見つめる気持ちの新鮮さが、ハイウェイを行く速度の中に小気味良く感じ取ることが出来るかのようなのです。

看過してしまうかのような心の動きや変化をすれ違う車や移動する風景へと重ねています。読み終えると夏の終わりの切なさと共に若い筆者の成長感覚にふと包まれて、やがて静かに満たされていくような気がし

ます。書いた人の日々や年月がそこに映し出されていく。その時にしか感じられない呼吸の真実が見えてくる。

詩を書くことを勧めることは、人生の今を深く見つめるまなざしを分かち合うことにつながるのではないのでしょうか。作品の良し悪しなどは二の次、三の次にして、まずは生徒たちと楽しんでみてはいかがでしょう。出来上がった詩を真ん中に置いて、人生や暮らしについて語り合うことを大事にしていくような、コミュニケーションの機会をおススメしたいのです。

授業中に取り組ませてみたものでも文芸部やサークルなどで創作を促してみた作品でも、または見つけてしまったふとノートの片隅に書かれた短いフレーズでもいいと思います。生徒さんたちからの詩の投稿を本欄にて呼びかけてみたい。そして短い紙幅ですが、ぜひいくつか紹介したいと考えています。詩となると敷居が高いというのであれば、言葉の塊のようなもので可、というぐらいでまずはどうでしょうか。

※「ほんとうのうた」を探しに

最近、ブッシュ孝子さんの詩集『暗やみの中で一人枕をぬらす夜は』（新泉社）と出会いました。この本は、若くして病を患ってしまい、その闘病中にドイツ人青年と結婚した日本人の女性が、命を終えるまでのおよそ五カ月の短い間に、一冊のノートに初めて綴った詩の言葉を日付順に並べて構成したものです。

二十八歳の短い生涯でした。迫りくる死への予感を抱きながらも、生きることの全ての意味を言葉へと刻むようにして、九十二篇の詩を残してやがてこの世を去りました。最初の九月九日にはこんなふう記されています。

美しい言葉が次々と浮かび出て
眠れぬ夜がある
新しい詩が次々と生れでて
眠れぬ夜がある

死を前にしながらも「次々と」という詩作への目覚めを新しく得ている場面に心打たれました。
九月十三日にはこんなふう書いています。

私は信じる
私にも詩がかかるのだと
誰が何といおうと
これは私のほんとうのうた
これは私の魂のうた

生徒たち、そして私たちにとつての「ほんとうのうた」。それをみなさんと共にこの欄で探してみたいと思っています。詩とは言葉と心さえあれば誰にでも開かれている扉なのです。

詩の作品大募集！

本連載では、高校生の詩の作品を募集いたします。応募作品の中から和合先生に選んでいただいたものを誌面にてご紹介していきます。奮って応募ください！（募集要項は64頁）

ことばでつながる やまとうた

第1回



ピーター・J・マクミラン
翻訳家、日本文学研究者、詩人。東京大学非常勤講師。著書に『英語で読む百人一首』（文春文庫）など。2019年、世界初の英語版百人一首「WHACK A WAKA百人イングリッシュ」を制作、発売。



奥村 準子
（おくむら・じゅんこ）
筑波大学附属高等学校教諭。大修館書店国語教科書編集委員。競技かるたの指導者、公認審判員、A級公認読手、また自らも競技者（六段）として活躍中。

英語で読む

stamp
No letter's come from my mother
nor have I sought her help,
crossing Mount Oe,
going it alone
taking the Ikuno Road to her home
beyond the Bridge of Heaven.

◆作者と歌

小式部内侍が詠んだとされるこの歌は、小倉百人一首の中でも中高生に人気があります。それは、歌にまつわる説話の面白さにあるようです。

小式部内侍の母は平安時代の有名女流歌人・和泉式部です。その母が夫の任地の丹後へ赴いていた時に、娘の小式部内侍が都で歌合の歌詠みに選ばれます。その折、定頼中納言が「丹後へ遣わした使者は参上しましたか？」と作者をからかいます。つまり、「歌合で詠む歌を母上から指南してもらいましたか？」という皮肉なのですが、彼女は素早くこの歌を定頼に返しました。「いくの」に地名の「生野」と「行く野」を掛け、「ふみ」に

おほえやま
大江山いく野の道の遠ければ
まだふみも見ず天の橋立

小式部内侍（百人一首・60）

「文（手紙）」と「踏み」を掛けた歌を詠みかけられた定頼は、なにも返すことができずに退散してしまいます。小式部内侍が得意即妙の歌を詠んで皮肉を切り返す痛快さがこの歌の人気の理由なのでしょう。

ところで、説話集の『宇治拾遺物語』には、小式部と定頼の二人が恋人関係であることが描かれています。定頼のかけた言葉や小式部の歌も、ひよっとしたら恋人同士の軽口だったのかもしれない。

現代語訳

大江山を越えていく生野の道は遠いので、丹後の天の橋立の地はまだ踏んでみてもいいし、母からの手紙もまだ見えていませんわ。

英訳のポイント



固有名詞である地名を用いた掛詞は、どうしても言葉を補わないと英語になりません。そこでルビを試しましたが、不慣れな外国人にはわかりにくく、結局、アメリカで刊行した *One Hundred Poets, One Poem Each*（英訳『百人一首（新訳）』Penguin Books, 2008）には載せませんでした。しかし日本人向けの英訳としては気に入っているので、二点、工夫したところをご紹介します。

一つは going it alone に「行く」「自分です（自分で歌を作る）」の二つの意味を持たせたところ。もう一つは「ふみ」の掛詞をふまえ、「切手」と「踏む」の意味を持つ stamp を使ったところです。

くらべて読む

平安時代後期の一一一五年頃に書かれた『俊頼髓脳』という歌論書があります。作者は小倉百人一首の74番歌「憂かりける人を初瀬の山おろしよはげしかれとは祈らぬものを」でおなじみの藤原俊頼です。和歌の歴史や歌風、修辞法などを論じた本書でも「大江山」の歌が説話とともに紹介されています。作者の小式部内侍は「心疾く詠めるもめでたし（素早い発想で詠むのも立派である）」と評価されています。しかし、ここで紹介される歌は、次のようになっています。

大江山生野のさとの遠ければ ふみもまだ見ずあまの橋立

小倉百人一首の歌と比べると、第二句の「道の」が「さと（里）」ですし、第四句「まだふみもみず」の語順が異なります。

次に、一二七七年に成立した五番目の勅撰集『金葉和歌集』を見てみます。この和歌集の撰者も俊頼です。

おほえやまいくのみちのとはければ ふみもまだみずあまのはしだて

「さと（里）」が「みち（道）」に変化していますね。このことによって、どんな変化があるでしょうか。「生野の里が遠いので」は、具体的な地名と「里」という場所がイメージされます。一方、「いくのみちの」は、「道のり」の方が強くイメージされるのです。

さらに、小倉百人一首になると、「まだふみもみず」と語順が入れ替わります。「ふみもまだみず」の場合、「ふみ」は、「文（手紙）」のイメージが強くなり、「踏み」の意味を捉えることが難しくなります。語順を入れ替えて「まだ」が先にくることで、「まだ踏んでいない」という「踏み」という語のイメージが浮かび上がり、「あ、これは掛詞かな？」と考えるように工夫されています。

歌集を編集する立場の俊頼・定家によって変化した歌は、こうして私達になじみ深い歌になっていったのです。

ことばと文化

▼大江山 ▼生野 ▼天の橋立

この歌には「大江山」「生野」「天の橋立」という三つの地名が詠み込まれています。和歌の中で繰り返し詠まれてきた地名を「歌枕」と呼び、特定の題材や発想と結びつけて詠むことが多くなります。

「大江山」は、酒呑童子の鬼退治伝説が有名で、能や歌舞伎、戦後の映画でも取り上げられました。現在は丹後半島の付け根にある仙丈ヶ岳を指すことが多いのですが、もともとは、京と丹波国の国境に位置する「大枝山」を指しました。『今昔物語集』には大江山で盗賊の被害に遭う説話が登場するなど不気味な地であり、歌に詠まれる場合も、丹波や丹後の国へ行く「境界の地」というイメージがあります。ところが、小式部内侍の歌が有名になっていくと、「大江山」と「生野（行く野）」を共に詠む歌がでています。小式部内侍の歌の影響を受けたものと思われれます。

また、日本三景のひとつ、「天の橋立」は、意外にも歌枕としての広がりはありません。『万葉集』や『古今和歌集』には登場しておらず、勅撰集で登場するのは先ほどの『金葉和歌集』からです。当時は新しい歌語だったようです。

「」にも注目！



説話に登場する小式部の母・和泉式部は小倉百人一首にも「あらざらむこの世のほかの思い出にいまひとたびの逢ふこともがな」（56番歌）で登場します。また、定頼中納言は「朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたる瀬々の網代木」（64番歌）の作者として、さらに定頼の父は多才な歌人として有名な藤原公任で、「滝の音は絶えて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ」（55番歌）の作者として登場します。こうしてみると、小倉百人一首は親子で登場する歌人がたくさんいます。小式部内侍と定頼はいわば「二世タレント」同士の関係とも言えるのです。

参考文献を積極的に引用させる ——高大接続が求められる文章作成指導

さ ども さ おり
佐渡島紗織

早稲田大学国際芸術院教授。
早稲田大学アカデミック・ラ
イティング教育部門長。専門
は、国語教育、特に文章作成
の指導と評価。

の考えだけが書かれている。

日本は、少子社会である。(中略) 本稿では、育児に対する支援不足に対して二つの解決策を示す。それは保育ママと幼老複合施設である。まず、日本には保育ママという施設をもっと増やさすべきである。フランスも、数年前に少子社会と呼ばれていたが、徐々に解消された。保育ママが増えたからである。次に、幼老複合施設の設置をすべきである。… (佐渡島他 〇〇、38頁)

網かけ部分は、フランスの事情を説明している。その説明は、書き手の知識をもとに書かれている。この部分を、証拠を挙げた論じるようにすれば、次のようになる。

しかし、「引用」の機能は、数多くある。例えば、次のような機能である。
◆書き手の説明や主張の具体例を示す。
◆書き手が示した具体例を一般化する。
◆これから詳しく説明しようとしている対象そのものを示す。
◆反論することを書き手の主張を強固にする。

◆物事の背景を示す。
まだまだあるだろう。あなたの生徒は、これらの「引用」機能をいくつ使ったことがあるだろうか。様々な目的で引用ができるようになると、文章には多くの視点が含まれるようになり、より緻密に考えが練られたものであると読まれるだろう。

参考文献を証拠として挙げながら論じさせ、また「引用」機能を使う経験を積ませる指導は、高校生の文章作成力ひいては思考力を大いに高めるであろう。

参考文献

佐渡島紗織・オリベira、ディエゴ・嶋田大海・デルグレゴ、ニコラス (二〇二〇)『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』大修館書店

学生が書く文章を見ていると、次のような問題点が目に留まる。(1)参考文献を証拠として挙げて論じる習慣がない。(2)他者の言などを引き合いに出して論じる際に、その使い方のレパートリーが少ない、という問題点である。これら二つの問題が克服されている文章は、考えを練って書かれたものだという印象を与え、評価が高くなる。(1)の問題は、文献をもっと積極的に引用しながら論じるという姿勢を作らせることで克服できる。(2)の問題は、様々な引用の機能を学習させ、それらを自分の文章で使う経験を重ねさせることで克服できる。高等学校において、こうした指導を開始すれば、大学ではその技能をさらに磨かせることができるようになる。高大接続の意識を

…フランスも、数年前に少子社会と呼ばれていたが、徐々に解消された。保育ママが増えたからである。現在フランスでは、保育ママの数が保育園より多い。しかも、保育園と同じ質を保証するために保育ママとして仕事をするには認可が必要である(高崎、二〇〇〇)。

参考文献

高崎順子 (二〇〇〇)「なぜフランスは少子化を克服できたのか。その理由は、日本とは全く違う保育政策だった」
https://www.hufingtonpost.jp/2018/06/20/paris-hoiku_a_23463375/

(佐渡島他 〇〇、38-39頁)

高崎がインターネットに書いている記述を要約して紹介した。これにより、フランスの事情が他者の言で説明され、書き手一人の知識によるものではないと示せた。参考文献の自身を要約して紹介せずとも、参考文献があるという事実を示すだけでも、証拠を挙げたことになる。

音楽を聴いて起きる感動には、様々な要素がある(ポール 二〇二二、藤本 二〇〇〇、川

コロナ禍の大学入試

——ヨーロッパと日本

伊藤実歩子

立教大学文学部教授



変動する大学入試
——資格か選抜か
ヨーロッパと日本

◎伊藤実歩子 編著
◎A5判・上製・290頁
◎本体3,000円

1 はじめに

日本の大学入試が揺れている。大学入試改革の目玉であった英語民間試験の活用と記述式問題の導入が見送られたのは、二〇一九年の一月から二月にかけてのことであった。そして年が明け、大学入試が終盤を迎えたころ、今度は新型コロナウイルスの感染拡大が待ち受けていた。二〇二一年度大学入試をどのように実施するのが次の緊急の課題である。大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストは予定通りに行われるほか、一月末、二月中旬にも追加の日程が加えられた。一方で、多くの大学の一般入試をどのように行うのか、詳細は不明なままだである。

2 公平な評価とは何か

さて、「どのようにして長い論述試験を公平に評価するのか」という問いに対して、あえて一言で答えるとするれば「日本的な公平性はほばない」という乱暴な答えになってしまう。もう少し丁寧に答えようとすれば「一点刻みで合否が分かれるような日本的な公平性はない」あるいは「逆に、日本の入試は不公平だという見方がある」と答えることができる。本書の序章では、この日本の入試公平性信仰を、ヨーロッパの高大接続の制度から相対化しようと試みている。

なお本書では、序章だけでなく、全体を通して、「ヨーロッパの制度はよいものだから、導入すべきだ」という単純な論調にならないように気を付けるようにした。ヨーロッパの高大接続の制度も、高等教育機関への進学者がマスカ化するにつれて限界を迎えており、問題が山積している。高大接続改革は今やどこ先進国にとっても重要な課題となっているのである。

ヨーロッパ各国の高大接続の制度は、日本のような選抜型ではなく、後期中等教育

さて、このたび『変動する大学入試——

資格か選抜かヨーロッパと日本』を上梓した。本書の構想を練っていた二年前、もちろんこのような状況を予測していたわけではない。しかしながら、昨今の大学入試の状況は、内的要因と外的要因が相まって、より一層「変動」していると言わざるを得ない。

ヨーロッパでは、後期中等教育修了資格試験として、一〇〇字どころか、四時間も五時間もかけて論述の試験問題に取り組むことが伝統としてある。このように語ると、学生のみならず多くの同業者たちも「どのようにして公平に評価するのか」ということばかりたずねてくる。日本の大学入試で

修了資格を持つていれば誰でも入学することができると資格型である。本書では、このような仕組みも含めて「入試」と総称しているが、日本の制度とは異なっていることを前提に読んでいただかなければならない。

この修了資格試験は、国によって呼称が異なる。ドイツではアビトゥア、フランスではバカロレア、イタリアではマトウリタ、イギリスではAレベルといった具合である。全国統一テスト方式の国もあれば、各州あるいは各学校で行われる国、また両者混合型の国もある。ヨーロッパの試験では、もちろん多肢選択問題もあるが、冒頭でも述べたように、長時間にわたる記述試験がある。ほかに、個別に行われる口述試験（ドイツ語圏、イタリアでは必修）、あるいはコースワークと呼ばれる課題探究型論文試験などが行われている。

先の学生らの問いに戻ると、試験の評価もまた「資格」に基づいて行われていると答えられる。すなわち、教師の「資格」を有する者は、論述試験や口述試験などの評価を適切に行う能力があると見なされ、社会的にも「信用」されているのである。本

は「公平に評価される」ということが最重要事項であることを改めて実感する。しかし、公平な評価とはいったい何を意味するのか。この問いへの応答を求め、ヨーロッパ各国の大学入試について検討することになった。本書で取りあげた国は、コラムも含めて、オランダ、イタリア、オーストリア、ドイツ、フランス、スウェーデン、フィンランド、イギリスである。入試制度や入試方法、評価方法の内実を検討すると、思った以上にバラエティーに富んでいることがわかった。

ここでは、本書で取り上げた内容のなかから、日本の大学入試の文化とは異なるヨーロッパの文化をいくつか紹介してみよう。

書で取り扱ったほとんどの国では、全国統一試験であっても、州ごと、学校ごとで行われる試験であっても、試験の作成者ならびに評価者は、送り出す側、すなわち後期中等教育学校の教師たちである。受け入れる側（高校受験なら高校、大学受験なら大学）が選抜する制度に慣れているわたしたちにはこれは非常にわかりにくい感覚である。

評価をめぐる問題において、もう一点大きな違いがある。それは、本書で取り扱った国々では、在学時の成績が資格取得に加味されない国は一つもないということである。日本における一般入試では、いわゆる内申書は加味されないのが一般的である。わたしが知人のドイツ人にこういって驚いた顔をして次のように言う。「その時に風邪をひいて本来の力を発揮できなかったらどうするのですか」「試験の時期にアレルギーが出る私にはとても不利です」……。「(風邪やインフルエンザが蔓延する冬の寒い時期の、あるいはコロナが再び猛威を振るであろう中での)健康管理も受験対策のうち」という日本の常識(?)は、この場合通じな

いのである。

ちなみに、コロナ感染拡大防止策として、全国統一試験の方式をとるイギリスのAレベル、フランスのバカロレアはともに中止となった。詳細は本書各章の最後に付したコロナ禍に関する追記をご覧ください。資格試験と選抜試験という大きな違いがあるのも容易な比較は慎まなければならないが、日本でこのようなことは可能だろうか。

3 職業と教育の往還

スウェーデン（第7章）やフィンランド（コラム⑦）では、職業経験を経てから大学へ行くことが一般化している。スウェーデンの新入学生は、二〇―二四歳が約半数、一九歳以下は四分の一、二五歳以上も四分の一という年齢構成になっている。近年、若年層の失業率が高いことなどからこの傾向は弱まりつつあるとはいえ、高大の接続が、高・職・大の接続となることで、より自分の興味関心やキャリアアップに基づいた学修意欲の高い学生を受け入れることができる。

は、自室がない、自分のパソコンがない、同じく休校（園）になった弟妹の世話に明け暮れる、コロナにより家計が危機に瀕するなどの状況は、例年に比べてまったく「unfair」だと主張したのである。

日本の高校生たちはこうした主張をするだろうか。誤解がないように言っておくと、ヨーロッパの学生に比べて日本の高校生は主張をしないと批判をするつもりは全くない。むしろ、日本では、そうした主張をする「場」の整備と教育が十分に行われていないことを指摘したい。それは、例えば、オランダの教育省が、生徒による教育への要求を主張する（そして時には抗議デモを行う）団体に助成金を与えていることと比較すれば一目瞭然である（コラム①で解説）。

上記のようなヨーロッパの生徒たちの動向を見ると、大学入試で最も重要なステイクホルダーは、受験生自身であるという当たり前のことに気づかされる。受験生は大学に選抜されるだけの存在ではなく、これから大学で学修していく主体なのである。今後、日本においては、大学入試の方

日本でも、近年は例えば小中高の教員たちが教職大学院で修士号を取得することが多くなってきたが、ヨーロッパの場合は、職種や学部・大学院を限定することなく、また元の職業に戻ることを前提としていないことも大きな違いである。仕事を辞めても、それまでの給与のいくらかは保障され（国によって異なる）、きちんと教育機関に通えばその間の授業料はのちに返還される社会の仕組みがある。職業と大学を、専門性の垣根を越えて自由に往復できることは、これからの働き方、生き方の一つとして日本でももっと考えられてもよいのではないだろうか。

4 スтейクホルダーとしての受験生

本書では、オランダやイタリア、フランスの章で取り上げたが、ヨーロッパでは高校生や大学生が、自分たちに関わる教育改革などに対してデモするのは普通の光景である。これらの事例からわかることは、日本とヨーロッパの受験生の意識の違いがあるということである。もちろん、日本の高校生は大学に「選抜される側」であり、

法の改革にとどまらず、受験生が大学入試のあり方に積極的に関与できる仕組みの構築、またそうした意識を受験生が持つことができるような教育が必要なのではないだろうか。

5 おわりに

大学入試改革は、行財政など複雑な問題が絡み合っている。例えば、定員の問題、授業料の問題、奨学金の問題などは、教育内容・方法を教育実践の具体から検討することを専門とするわたしには到底解決できないものである。しかしながら、ステイクホルダーである受験生にとって、また彼らを指導する高校の教員たちにとって、最も重要なのは、入試の方法であり、内容であり、また評価の方法なのではないか。どのような入試の方法であれば、高校までの学力を保障し、またこれからの大学での学修や研究に十分な能力と意欲を可能な限り予測できるのか。こうしたことをヨーロッパの事例を検討することから始めたい。そういう思いで編纂した本書を、読者の皆様に厳しい目でご覧いただければ幸いである。

ヨーロッパの高校生は取得した資格を持って、大学を「選択する側」という制度の違いも大きくかわっている。

紙幅の都合で本書には書けなかったことだが、ドイツでは、二〇一九年に行われたアビトゥア¹の数学の問題が例年に比べて難しくなるとして、七万人の高校生が教育省への嘆願書にオンラインで署名したと報じられている。この件は、最終的には、数学が例年に比べて難しくなるといったことはなかったという結論に終わるのだが、こうした抗議デモは、この年に限らず行われている。

また二〇二〇年のコロナ禍で学校が閉鎖、オンライン授業などに切り替えられる中で、アビトゥアは多くの州で日程の延期を決定した。このような一連の措置に対して、生徒会（各学校だけでなく、州にもある）やアビトゥア受験生によって結成された「FairesAbi2020」というグループは、今年のアビトゥアの得点は、在学時の評定をよくすることはあっても、悪くすることがあつてはならないといった要求を各州の教育省などに訴えた。休校中の自宅学習で

注1…ただし、二〇一九年九月に小規模ながら東京では高校生らによる入試改革反対のデモがあった。また、大学の教員グループも署名活動を広く行い、結果、英語外部試験導入などは見送られた。SNSの急速な発展・普及などがこうした行動を容易にしたとはいえ、ステイクホルダーとしての高校生の意識の変化の兆しを認めることができると思う。しかし、本文の繰り返しになるが、こうした意識を持ち、行動することを継続させるためには、まずは、そうすることを権利として認める「場」の保障、次にそのための教育が必要である。

【参考】

- ・「入試改革中止求め高校生らデモ 文科相は『実施に全力』」朝日新聞DIGITAL
<https://www.asahi.com/articles/ASN9F53SWM9FUTD101Rhml11010年八月三〇日確認>
- ・鳥飼玖美子「十代と語り英語教育 民間試験導入延期までの道のり」ちくまプリマー新書、二〇二〇。

いま、漱石を読む〈特別版〉

教科書は時代を映す鏡

『国語教室』104・110号の人気連載「いま、漱石を読む」が大幅な書き下ろしを加えて、本になります。刊行に先立って、著者の石原千秋先生にコメントをいただきました。

いしはら ちあき
石原千秋
早稲田大学教授

高校生時代のことである。二年生の「現代国語」で漱石の『それから』を学んだ記憶がある。その頃も教科書では『それから』は少数派だった。のちに成城大学でゼミを選んだ高田瑞穂先生がこの教科書の現代文の代表で、『それから』がとても好きだったから収録したのだろう。特に「歩きたいから歩く。すると歩くのが目的になる。考えたいから考える。すると考えるのが目的になる」という代助の思想がよく現れた言葉がお好きだった。つまりは資本主義批判だ。しかし、この教科書はそれを押し付けない。代助だけでなく、父親の長井得の考えについても「どう思うか」と生徒に問いかけるのである。二人の考えを対置させて考察することは、当時の研究の水準そのものだった。

『三四郎』は多くの教科書が、上京して驚く小川三四

郎を生徒に教えるようとしている。女性の高校進学がまだ少なく、上京することが立身出世につながっていた時代を映している。それらを眺めていて驚くのは収録された評論である。一九五六年検定の有朋堂の『国文 現代編』では、福沢諭吉「学問のススメ」、坪内逍遙「小説神髓」にはじまって赤木桁平「遊蕩文学の撲滅」が並んでいるのだ。本名池崎忠孝、のちに国会議員になる漱石の弟子で、遊郭で遊んだことを書くような不健全な文学を「撲滅」せよと強く訴えた評論だった。いまでは修士の大学院生でも知らないだろう。これで、いったい何を教えようとしたのだろうか。

今度、大修館書店から『教科書の中の夏目漱石』（仮題）を刊行することになった。そのために、まさに戦後の教科書の中の『吾輩は猫である』、『坊っちゃん』、『草枕』、

『夢十夜』、『三四郎』、『それから』、『こころ』、『現代日本の開化』、『私の個人主義』を見ている。すると、いま書いたような発見の数々に出逢う。それが驚きでもあり、楽しくもある。教科書は数年に一度改訂されるから、いろいろな形で時代を映している。ことに収録教材の変遷は興味深い。定番教材であっても収録箇所の変遷や「学習」の変遷に時代が映し出されている。教科書は時代の鏡であり、時代を生き抜いてきたのだ。漱石に限られてはいても、こうした時代の雰囲気や伝えられたいと思っている。

この本は、実際に教室で役立つように、ハンドブックに近いテキストで構成される。

まず、この『国語教室』に連載したそれぞれの作品の読みに加筆して、一つの読み方を提示してみた。あくまで「一つの」だが、それは「ふつう」の読みではなく、ある意味で教科書教材として虚を突くものであれば嬉しい。それから、これらの作品がどのように教科書に収められてきたのかを概観する。これがこの本の主要部分だが、目指すところは同じだ。

たとえ十分に自覚していなかったとしても、ある事柄について「〜である」と言えるためには、「〜ではない」とことと比べられていることが前提となっている。「スカ

イツリーは日本で一番高いタワーである」と言うとき、私たちはどこかで別のタワー、スカイツリーではないタワー（おそらくは東京タワー）とスカイツリーとを比べている。教室での読みは見えない土俵の中にある。大学の文学もまったく自由というわけではない。その土俵の輪郭を映し出すためには、「教室での読みではないもの」を知るのが有効な方法だろう。虚を突くような読みや、思いもしないようなかつての収録のされ方を知ること、いまの教室を映し出す鏡でもある。

そのほかに、漱石を知るためのブックガイド、論文ガイド。そして、戦後の漱石の教科書収録作品が一望できるようなデータ編からなる。

数年前に『夏目漱石『こころ』をどう読むか』（河出書房新社）という評論と研究論文のアンソロジーを編集したことがあった。好評で三刷りとなった。その勢いを借りて『三四郎』を出したが、さっぱりだった。付録的な扱いであってもとにかく中学国語の教科書に掲載されている『坊っちゃん』を試みたが、やはりさっぱりだった。高校国語で『こころ』を知的に読んだ経験が、こうしたアンソロジーを受け入れる素地になっているにちがいない。知的であることは、「〜ではない」が見えていることである。そういう本になればと願っている。

「ナ特」で納得！

紫式部にファンレターを書こう③

おおくら ひろし
大倉 浩
筑波大学教授

課題

次の文章を、紫式部がわかるように書き換えよう。

あなたの書いた物語の「きりつぽ」を読みました。死んでしまう桐壺更衣がとてもかわいそうでした。

前回の検討で、最初の文を

おもとのものしつる物語の「きりつぽ」を読みはべりき。

と書き換えました。現代語の「した」の書き換えがポイントでした。今回は続く文を書き換えます。

死んでしまう桐壺更衣↓死にぬる桐壺更衣

でいいでしょうか？「死にぬる」という表現が、落ち着きません。「死ぬ」は不吉な言葉ですから、これま

で参考にしてきた現古辞典でも、様々に言い換えた表現が時代ごとにあることがわかります。しかし今回は、この「死ぬ」という動詞にこだわってみます。

現代語に比べると、古語の動詞の活用は、9種類もあってパターンが複雑です。活用は品詞分解の基本でもあり、助詞や助動詞の接続を考える上でも重要となる古典文法の根幹の一つです。その中で「死ぬ」は、「往ぬ」とペアで「ナ行変格活用（ナ変）」と呼ばれる、特別な活用をする動詞として分類されています。活用は死（語幹）なにぬぬるぬれぬ

ですね。教室で先生は、「ナ変は『往ぬ』『死ぬ』の二語しかないから覚えておくように。」とあっさり言うだけで、生徒のほうはペットの犬が心配になったり、昔飼っていた亡くなった犬のことを思い出してしみじみしたりする（私もそうでした）ぐらいの記憶しか無

いかもしれません。でも改めて考えると、ナ変ってそんなに「変」でしょうか？

古典文法が人気のない理由の一つに、その用語の難解さ・複雑さがあります。江戸時代の国学からの研究の伝統が背景にあります。二十世紀の子供たちには、英文法や、日本語教育で使う文法用語とのすり合わせが必要だと、私は思います。少なくとも「正格」活用と「変格」活用という用語は、あまり気持ちのよいものではないかもしれません。

「死ぬ」に戻ると、その活用は不規則で予測不能ではなく、「ナ・ニ・ヌと、四段活用かと思ったら、途中からヌル・ヌレと二段活用になって最後は四段のネに戻る」という、いわば四段活用と上二段活用の両面を持った「欲ばり」な活用をしているだけです。二語しかないといっても「死ぬ」はおそらく「死・往ぬ」（死の世界に往ってしまう）が語源でしょうから、もともと「往ぬ」一語でしょう。さらに動詞の活用とア行カ行など五十音図の行との関係を眺めてみると、カ行には四段、上一段・上二段、下一段・下二段、カ変と様々の活用をする動詞があるのに、ナ行には上一段、下二段とナ変だけ、四段と上二段の動詞が無いのです。

これは偶然ではなく、ナ変は、ナ行で四段と上二段を兼任する特別な動詞とも言えるのではないのでしょうか。何が特別なのかというと、ナ変と同じ活用を持つ助動詞があるのです。そうです、完了の「ぬ」です。助動詞「ぬ」は、語形（「往ぬ」の「い」が母音脱落した）からも、意味（「往ってしまう」↓「自然にそうなってしまう」）からも、「往ぬ」に由来する助動詞と考えられます。助動詞として頻繁に現れる活用パターンであり、「往ぬ」という動詞自体も関西方言にも残っているように、基本的な意味の動詞であり、「死ぬ」も特別な動詞です。ナ変ではなく、ナ行特別活用動詞、「ナ特」と名付けたいくらいです。

この助動詞「ぬ」との関係については、副読本や古語辞典でも、平安時代には「往ぬ」「死ぬ」に「ぬ」が接続する例がないという事実を指摘しています。もともと「往ぬ」が「往ってしまう」という完了の意味を持っているので、「ぬ」を付ける必要が無かったわけです。そこで、ファンレターの書き換えは、

死んでしまう桐壺更衣↓死にぬる桐壺更衣

でよいことになります。ナ変以外の変格活用動詞にも、見直すべきことがあります。ナ変以外の変格活用動詞にも、

古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>



青山あり！

中国祠墓紀行

[WEB国語教室]運動

第三回 朱熹墓(福建省南平市建陽区)

文と写真

平井 徹

慶應義塾大学講師(中国文学)



◆DATA

人物：朱熹(1130-1200)。南宋時代の学者、思想家。
墓所：福建省南平市建陽区黄坑鎮後塘村大林谷、市街から西北78km
アクセス：東京から ▶ →4h 厦門〈アモイ〉 ▶ →1h 武夷山空港 ▶ 1.5h
あわせて行きたい：朱熹故里・記念館(江西省上饒市鉛山縣)、鵝湖〈江西上饒市鉛山縣〉

朱熹(一二三〇～一二〇〇)。南宋時代の学者、思想家。字は元晦、のち仲晦。号は晦菴など複数ある。儒学を組織的に体系化し、「宋学」を樹立した。朱子と尊称される。

福建省をめぐる旅の一環として、朱熹墓を訪ねようと企画したのは、二〇一二年の七月末のことだった。初日の夕刻に武夷山空港に着き、翌日から一帯を歩くこととした。

まず市の東南部、五夫鎮府前村にある「紫陽樓遺址」を訪れた。十代半ばの朱熹が母とともに移り住み、その後四十年間を過ごした旧居跡で、彼の祖籍(徽州婺源)にある紫陽山から命名された。一九九八年に祠堂などを復元した

が、ここはむしろ「荷花の里」として有名で、日本の鄙びた農村を思わせる風情が心に残っている。同じ五夫鎮には、朱熹が講学した「興賢書院」(書院は、宋代以降多くあらわれた私塾の意)もあり、清代重修の古建築に興味をそそられた。五夫鎮は、二〇一〇年に「中国歴史文化名鎮」に登録されている。

武夷山では、観光地区の一角にある「朱熹園」にも立ち寄った。敷地内には、「武夷書院」(もとの名は「武夷精舍」。ここも朱熹が講学した私塾)と、記念公園を備えている。公園内には、朱熹をはじめとする同時代の学者たちの塑像が並ぶ。



▲五夫鎮の荷花(2012年7月撮影)

翌朝、一路南下して、建陽の朱熹墓に向かう。二〇一五年以降の行政区分では、建陽区として南平市の一部に編入されているが、私が訪問した時は独立した市だった。墓は郊外の黄坑鎮後塘村大林谷、田圃の中の静寂な一角にある。墓地は二百平米ほどでこぢんまりしている。墓は東向きで、中国の墓には珍しく、卵型の栗石に覆われた円丘形で、いかにも「奥津城」といった風情に富んでいる。清の康熙五十六年(一七一七)に建てられた墓碑に「宋先賢/朱子/夫人劉氏/墓」とあるとおり、夫婦の合葬墓である。劉氏の歿年は朱熹より二十年以上も前で、あり、風水に恵まれた地であることから、朱熹は生前より、妻とともにここに葬られることを望んでいた。朱熹が建陽の「滄州精舍」(現在の「考亭書院」)で歿した当時、その学は「偽学」として弾圧されていたが、葬儀には、彼を慕う数千人が



▲建陽の朱熹墓。酷暑の中、訪れる人もなく、神さびたたたずまいで、沖縄に多く見られる亀甲墓を想起した。(2012年7月撮影)



参列したという。朱子学が「官学」として認可され、権威を有するようになって以後、彼の墓に詣でる者は、手前の亭で、文官は轎より降り、武官は下馬する習わしとなった。

都甲幸治 著

引き裂かれた世界の文学案内

境界から響く声たち



四六判・並製・二二四ページ
定価Ⅱ本体二二〇〇円十税

評者Ⅱ加賀観月

二〇一七年にハリウッドの大物プロデューサーによるセクハラ被害の告発から始まった#MeToo運動は、全世界の女性たちの抗議へと発展した。また、米国ミネアポリス州で起きた白人警官による不当な拘束によって黒人男性ジョージ・フロイドが死亡した事件は記憶に新しい。二十一世紀にしてなおアメリカには根強い人種差別が蔓延していることが世界中に知れ渡る象徴的な事件といえるだろう。人種、性、宗教など、人々の関係性の分断はインターネット

やSNSを通じて古くて新しい問題となった。文学はそうした世界の構造的な暴力を物語の主人公やその周辺の人物を通じて明らかにしていく。

本書はサリンジャーやブコウスキーなど二〇世紀のアメリカ文学作品、ミシェル・ウエルベックやハン・ガンなど二十一世紀の世界の文学作品を著者の語りを通じて紹介していく。

中村和恵、温又柔、くぼたのぞみ、岸本佐知子の四名を迎えた対談も本書に魅力的な色彩を与えている。

郡 史郎 著

日本語のイントネーション

しくみと音読朗読への応用



A5判・並製・二五六ページ
定価Ⅱ二六〇〇円十税

評者Ⅱ小河内光

寧な助言が満載であり、実用書としての性格も強い。

最も参考になるのは「意味の限定」や「フォーカス」に関わる話だろう。「けさ買ったばかりの傘をなくした」は「けさ買った」とも「けさなくした」とも取れる。「私にはもうひとり娘がいます」では、娘は複数でなく一人の場合もある。これらは声の高低の動きで言い分けることができる。「ごん狐」の朗読を理詰めで細かく分析する部分が圧巻。例文の音声の特設サイトで手軽に聞けるのがありがたい。

高嶋幸太／木村久美 著

ビジネス・就活で活きる

「伝え方」のベストプラクティス



四六判・並製・二二四ページ
定価Ⅱ本体一五〇〇円十税

評者Ⅱ内村 聡

本書はビジネスや就活の場面で伝えたいことをどう伝えると聞き手に効果的かについて解説したものである。3章構成で、第1章は面接、第2章はプレゼン、第3章は話し合いの場面の伝え方について取り上げている。

本書はストーリー形式を採用し、大学生、若手社会人、留学生を受講者とした「伝え方講座」を開講するという設定となっている。親近感を持って小説を読む感覚で読み進められる。

また、各章の項目で挙げられ

ているポイントについて、心理学や行動経済学などの知見を基に、学問的な根拠をもって解説されていることも特長といえる。

例えば、聞き手が知らないと思われるインパクトのある情報を先に出すことで聞き手の興味を引けることを紹介しているが、これは、人は知識や情報に欠けている部分（隙間）があると苦痛を覚えるという行動経済学の「隙間理論」に基づいている。印象よく伝えたいと思っている人なら読んでもらいたい良書である。

磯野英治 著

言語景観から学ぶ日本語



A5判・並製・一六〇ページ
定価Ⅱ本体一六〇〇円十税

評者Ⅱ山本 敦

「言語景観」とは、街を歩いていて自然に視界に入る文字・記号の類をいう。それを言葉の教育に生かすことを目的に編まれた本。看板・案内表示・ポスターなどの写真を豊富に載せ、それらについての考察を課す。公共表示と民間表示、多言語化、漢字・仮名の表記法、方言の使用など、話題は多岐にわたる。

本書の特徴の一つは、社会的背景への関心である。「海抜4.0メートル」という表示の意味。電柱に貼られた塾の案内「算数・数学 英語 国語 日本語」から想

像される地域の特徴。ふだん気にも留めない文字を観察の対象にすることによって、街の見え方が変わってくるだろう。

もう一つの特徴は、外国人の目から日本語を捉える視点だ。海外の観察例も多数紹介されている。韓国のATMの表示「処理中だから少々お待ちください」「インドネシアの化粧品店の名「こずい」など、日本語について考える切り口は無数にあるように感じられる。

街そのものが「教材」の宝庫だったのだ。注目の分野である。

2020.3~8

国語の

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

教育行政関係

- 小学校で新学習指導要領全面実施 (4/1)
- 「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」中止決定 (4/17)
- 全国の小中高等学校が再開 (6/1)
- 文科省「『学びの保障』総合対策パッケージ」公表 (6/5)
- 「科学技術・イノベーション基本法」(改正科学技術基本法) が成立 (6/17)
- 文科省、2021 年度「大学入学者選抜実施要項」発表 (6/19)
- 中教審、普通科再編案を議論へ (7/17)
- 大学入学共通テスト「受験案内」及び「受験上の配慮案内」公表 (7/22)

時事

- 別役実死去。82 歳 (3/3)
- オリンピック延期決定 (3/24)
- 本屋大賞発表。風来坊「流浪の月」(4/7)
- 7 都府県で緊急事態宣言 (4/7)
※16 日に対象を全国に拡大。5/25
までに段階的に解除。
- 遠藤周作の未発表原稿発見 (6/26)
- 芥川賞・直木賞発表。芥川賞は高山羽根子「首里の馬」、遠野遥「破局」、直木賞は馳星周「少年と犬」(7/15)
- 外山滋比古死去。96 歳 (7/30)
- 山崎正和死去。86 歳 (8/19)

「学びの保障」総合対策パッケージ

文科科学省は「学びの保障」総合対策パッケージ」を公表し、一斉休業による授業の遅れへの対策などの支援策を示した。

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/1411020_00004.html

このほか、新型コロナウイルス感染症に関連するサイトを以下に紹介する。

●子供の学び応援サイト (文科科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm

●新型コロナウイルスに関連した感染症対策

夏休みの短縮

文科科学省は7月17日、「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた公立学校における学習指導等に関する状況について」を公表した。この調査によると、4月1日以降に学校を休業した自治体は、全体の9割以上に及んだ。再開後の対応として、夏休みを短縮する自治体が95%に上った。
(https://www.mext.go.jp/content/20200717_mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)

高校普通科の再編

中央教育審議会の特別部会は、7月17日、今後の高校の在り方を議論する作業グループから、普通科再編に関する報告を受けた。現在、高校生の7割が普通科在籍だが、「普通」という名称には、画一的な学びの印象が伴う。そのため今回の再編では、学校設置者の判断で魅力的な学科を柔軟に設置できるようにし、生徒の学習意欲の喚起を狙う。具体的には、SDGsの実現などの分野横断的な学びに重点を置く学科など特色のある学科の新設を認める。今後議論を深め、年度内に答申をまとめる予定。

研究会だより

日本語学会2020年度秋季大会

日時 2020年10月24日(土)・25日(日)
場所 オンライン
[問合せ] <https://www.jling.gr.jp/talkai/2020b/>

全国大学国語教育学会第139回 秋期大会

日時 2020年10月31日(土)・11月1日(日)
場所 オンライン
[問合せ] <https://www.jtsj.org/>

日本近代文学会 2020年度秋季大会

日時 詳細未定
場所 オンライン
[問合せ] <http://amjls.web.fc2.com/conference.html>

日本漢学会

日時 2020年11月28日(土)・29日(日)
場所 立命館大学衣笠キャンパス
[問合せ] <https://jscc.org/>
※オンライン開催或いは中止の可能性あり

●開催中止

・第83回国語教育全国大会 (20年9月)
・全国高等学校国語教育研究連合会第53回研究大会石川大会 (20年10月)

遠藤周作の未発表原稿発見
長崎市遠藤周作文学館は、遠藤周作の未発表小説「影に対して」が発見されたことを公表した。発見されたのは草稿2枚及び秘書による清書原稿104枚。
(<http://www.city.nagasaki.jp/endou/news/?id=132>)

とした日程の選択 (第1、第2日程から) が可能となった (既卒生は対象外)。また、罹患した受験生の受験機会確保のため、2週間おきに3回の日程が設定されている。

大学入学共通テストの対応

第1日程	1月16・17日
第2日程	1月30・31日
(在学生在学業の遅れを理由に出席時に選択可能。第1日程の追試験も兼ねる)	
特例追試験	2月13・14日
(第2日程の追試験)	

大学入試センターの受験案内 (https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r3.html)
文科科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1346785.htm)

新年度開始とともに、本棚を買い替えました。幼い頃から「自分だけの書斎を持つ」という夢があり、部屋の壁一面に本がずらりと並んでいる様に、ずっと憧れています。まだ理想には程遠い小さな本棚ですが、その一角に辞典スペースも設けています。テレビを見ていて気になった言葉を引くようにしているのですが、テレビをのちのけで読み続けてしまうこともしばしばあります。一つ調べると同ページ内に複数の情報を得られ、解説文も短く「ちよい読み」に丁度良いのです。家にずっといるようなときには、辞典を読み、合間に辞典の重さを利用して筋トレしてみるのが悪くないかもしれません。

東京支店 橋本歩佳



私は小学生のときから将棋が趣味で、今でもプロ棋士の対局を見るときが至福の時間です。コロナ禍において、大好きな藤井聡太二冠の躍進は自身の活力の源であり、明るい未来への光明にも思えます。彼はデビュー以来記録を更新する度に、インタビュで「僥倖」や「望外」といった読書で得た難解な語句を、自分の言葉として自然に発します。十八歳の誕生日に抱負を聞かれたときには「探究」が自分の課題であると語りました。まさにこれからの時代に大切なテーマを意識しているところ、一流たる所以でしょうか。私も新しい『明鏡国語辞典』を活用して生きた言葉を身に付け、課題解決に日々精進して参る所存です。

仙台営業所 富田智春



「TOKYO 2020」の旗が、さみしく風に揺られていた春先。コロナ禍の影響で、近所の高校からは生徒の声が消え、商店街のお店も営業を縮小、いつもとは違う新年度のスタートとなりました。夏になり、暑いのを我慢してマスクを着けることには慣れましたが、未だに慣れないのがオンラインでの打ち合わせです。

友人や家族のほか、仕事でのコミュニケーションも、オンラインで行う機会が増えてきました。編集部も慣れないZOOMでの会議にチャレンジ。対面なら何となく伝わってしまう微妙なニュアンスを、きちんと言葉で説明できなかったり、相手の意図を十分汲み取ることができなかったり……。誤解を減らし、オンラインでのやりとりをストレスのないものにするためにも、豊かな語彙力は欠かせません。

冬に向けて、少しずつインフルエンザも心配になる時期。家でゆっくり本を読み、わからない言葉に出会ったら、『明鏡国語辞典 第三版』を開いてみてはいかがでしょうか。(孝)

詩の作品、大募集!

詩人の和合亮一先生による新連載「詩の教室へようこそ」では、高校生による詩の創作作品を募集いたします。お寄せいただいた作品は、和合先生に選んでいただき、優れたものを連載の中でご紹介します。作品が掲載された方には、大修館オリジナルグッズをプレゼント!

「大修館書店『国語教室』係」まで、奮ってご応募ください。

国語教室 第114号
2020年10月15日発行

編集室 国語教室編集室
発行人 鈴木一行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>